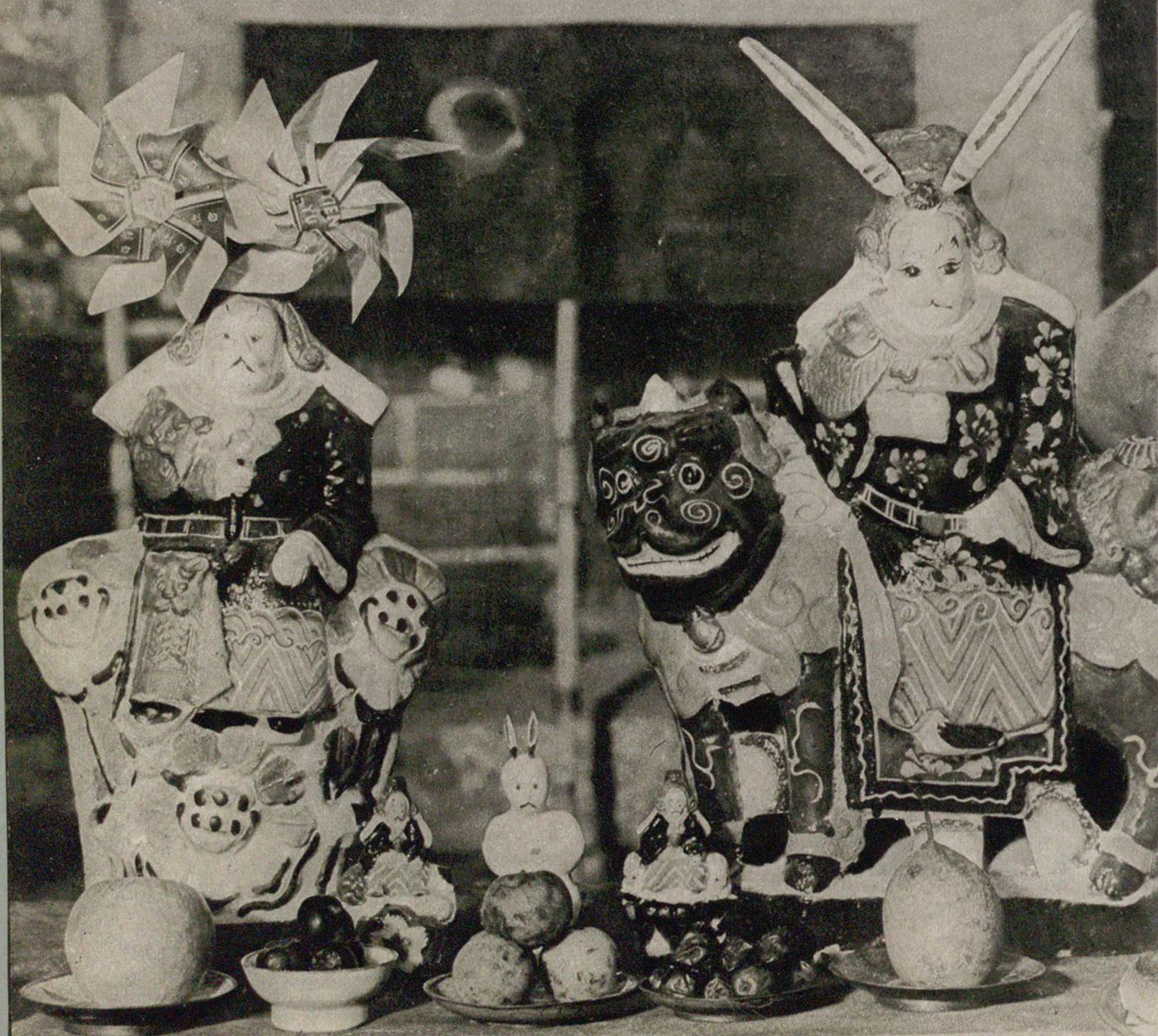
北支

現地編輯

THE NORTH CHINA

9[2]

萬里長城

The Great Wall of China

古北口より山海關へ連なる長城

解説を入れて

古北口より山海關へ連なる長城

萬里長城

2

The Watch Tower on the Great Wall, Ku-Pei-Kou

蜿蜒萬里雲に入る、といふ長城は東は滿支國境の山海關から西は甘肅省の西端嘉峪關まで、その間河北、山西、陝西、甘肅の四省を横斷し長さは凡そ五千四百四十支里、更に山谷に起伏する環帶分岐をも加算すればその延長は實に一萬二千餘支里、誠に世界に冠絶する巨大なる城砦で支那に關する多くの事物の象徴をなすものである

普通一般に長城は秦の始皇帝の創業であると思はれてゐるが、實は始皇帝より約二百年程前から歴代の帝王がその時々に部分的に築造してゐたのである始皇はこれに增築を加へ、大修理を施してほゞ統一完成したもので、始皇以後、南漢、南北朝、隋等の各時代にもそれぞれ幾度か增築、修築が繰り返され、明代に至つて始めて現在に見る壯

大な長城が完成されたのである。「萬里の長城」と言ふ名稱も、明以後に始めて呼ばれたもので、それまでは單に「長城」と言はれてゐた

城壁の高さは大概十五尺乃至三十尺、厚さは十五尺乃至二十尺、皆磚と石とで築かれ極めて堅緻で垣の外に雉堞を建て、內には石欄を建て、中に大道を設けて三十六丈ごとに一墩臺を築いてゐる。舊制によれば寇至るや直ちに晝は煙を、夜は火を擧げて警徵兵に知らせたものである

長城築造の目的は、亞細亞北方民族である蒙古族、滿洲族、土耳古族等の襲來を防止するためで、今日のやうに飛行機のある時代と違つて長城一つが强敵防衛の唯一の武器であつた。これがために如何なる努力も費用も惜しげなく抛つたものである。

秦の始皇帝は蒙恬と言ふ大將を總監督として幾百萬人の壯丁を動員してこれが築造に當らしめた。史記によれば長城の建設、老弱賦役幾百萬人なるを知らず、ために民の怨恨を買つたことも夥しく、總監督の蒙恬は城塹の地脈を斷つことができなかつたといふので罪を得て毒藥を呑んで自殺し、始皇のかうした振舞にとやかく言つた學者たちも逆鱗にふれて四百六十人も一時に坑殺された

寫眞は古北口の墩臺（親子望樓）

張家口大境門外の長城

萬里長城

この專制の世に行はれた最大の殘虐に關る幾多の傳說の中、その一つの孟姜女は特に有名で劇に仕組まれ、「孟姜女」「哭長城」又は「萬里尋夫」の名の下に、支那劇の當り狂言の一つである。長城を造る爲に召された夫が人柱となつて長城の下に埋められ、日ならずして長城は完成する。妻の孟姜女は萬里の道を遠しとせず長城に辿りつけば夫はもはやこの世の人ではない。長城の前で號泣すれば爲に長城が崩れたといふ話で、劇中、孟姜女の歌ふ

正月梅花是新春　家家戸戸點ニ紅燈ー
別家丈夫團圓聚　我家丈夫去造ニ長城ー

は民間に廣く歌はれてゐる

前述の如く長城は北方胡人の襲來を防止するための築造であつたが、北方滿洲族である淸は蒙古族をその傘下に領めて一致して明を討滅したものであるから長城の必要は認めず、これを却つて漢人の胡地侵入の防止に利用した。而して又滿洲國の建國はこの長城を國境決定に利用し、今事變による蒙疆地域の劃定も又この長城を境界としてゐる

上の寫眞は石太線娘子關の關門

北支の紡績業

Cotton Industry in North China

華新紡績工場—唐山—

北支に紡績工業が發達したのは第一次歐洲大戰以後で、殊に一九三一年以來關稅自主權を獲得して關稅障壁を樹立したことによつてその發展は一段と拍車をかけられた。その後經濟恐慌による綿業不振のため世界の紡績錘數は年年減少してゐたに拘らず、銀安の關係から北支の紡績錘數は寧ろ增加を見せるに至つた。しかしながらこれを內面的に見るとき、恐慌の支那紡績業に及ぼした打擊は非常なもので、殊に華商紡に對するそれは決定的であつた。一九三六年の農產物の豐收にもとづく綿業景氣によつて一時的の活況を呈し、錘數もまた增加の一路を辿つてゐるがこの增加の大部分は、最近盛んに增錘新設工事を行つて英支資本工場に脅威を與へてゐる日本資本工場であつて、支那側工場の如きは何れも操短、または工場閉鎖を行ふなど氣息奄々たる有様である。また事變後には北支各地の支那側紡績工場が邦人紡によつて大部分經營され、支那側紡績の全面的後退を現出するに至つた

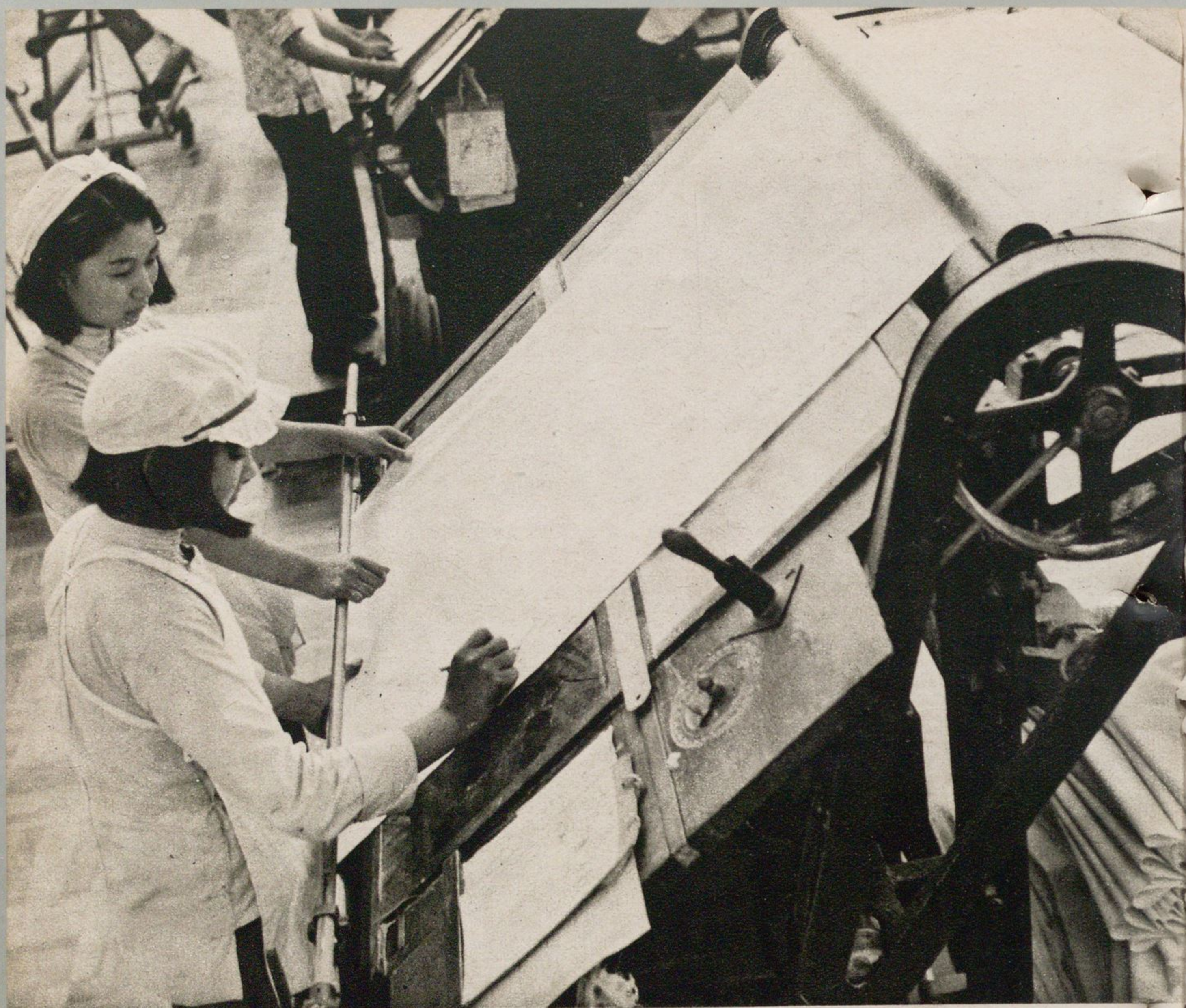
現在北支における紡績工場は河北省十四、山東省十三、山西省四、合計三十一工場を數へ、現在その設備總計精紡機百九萬四千九百六十四錘、織機一萬九百七臺を示して居り、更に各工場共將來の增設が計畫されてゐる。その生產額は事變前綿糸約四十六萬七千梱、綿布約七百九十萬反であり、年產能力は現在設備で綿糸約六十五萬梱、綿布約一千三百萬反見當と看做される。たゞこゝで問題になるのは、生活必需品たる綿布を充分に購ひ得ぬ農民の窮狀を如何にして打開し、購買力を增進せしめ得るかの問題であり、原料たる棉花の改良增產と共に今後充分に考究されねばならぬ

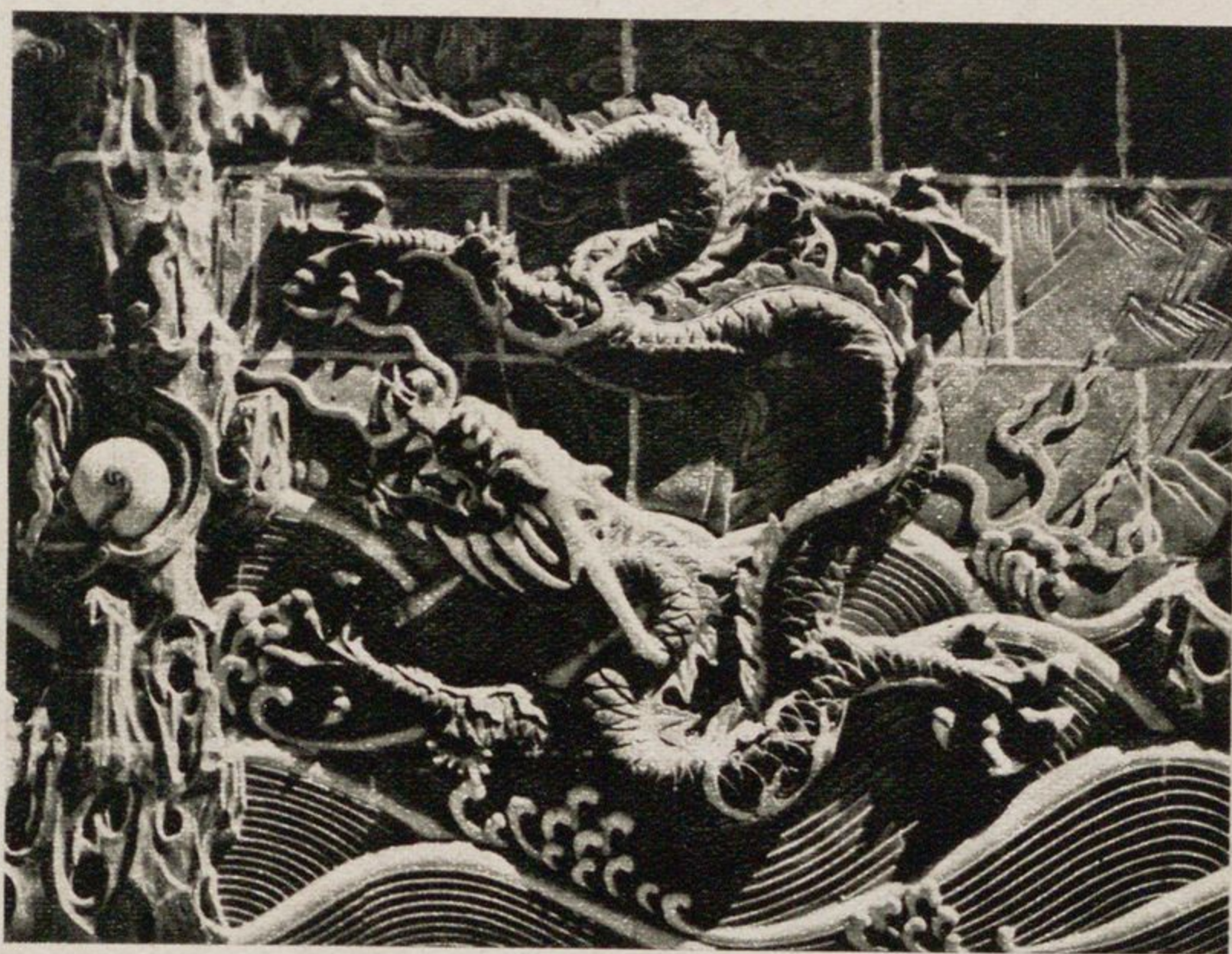
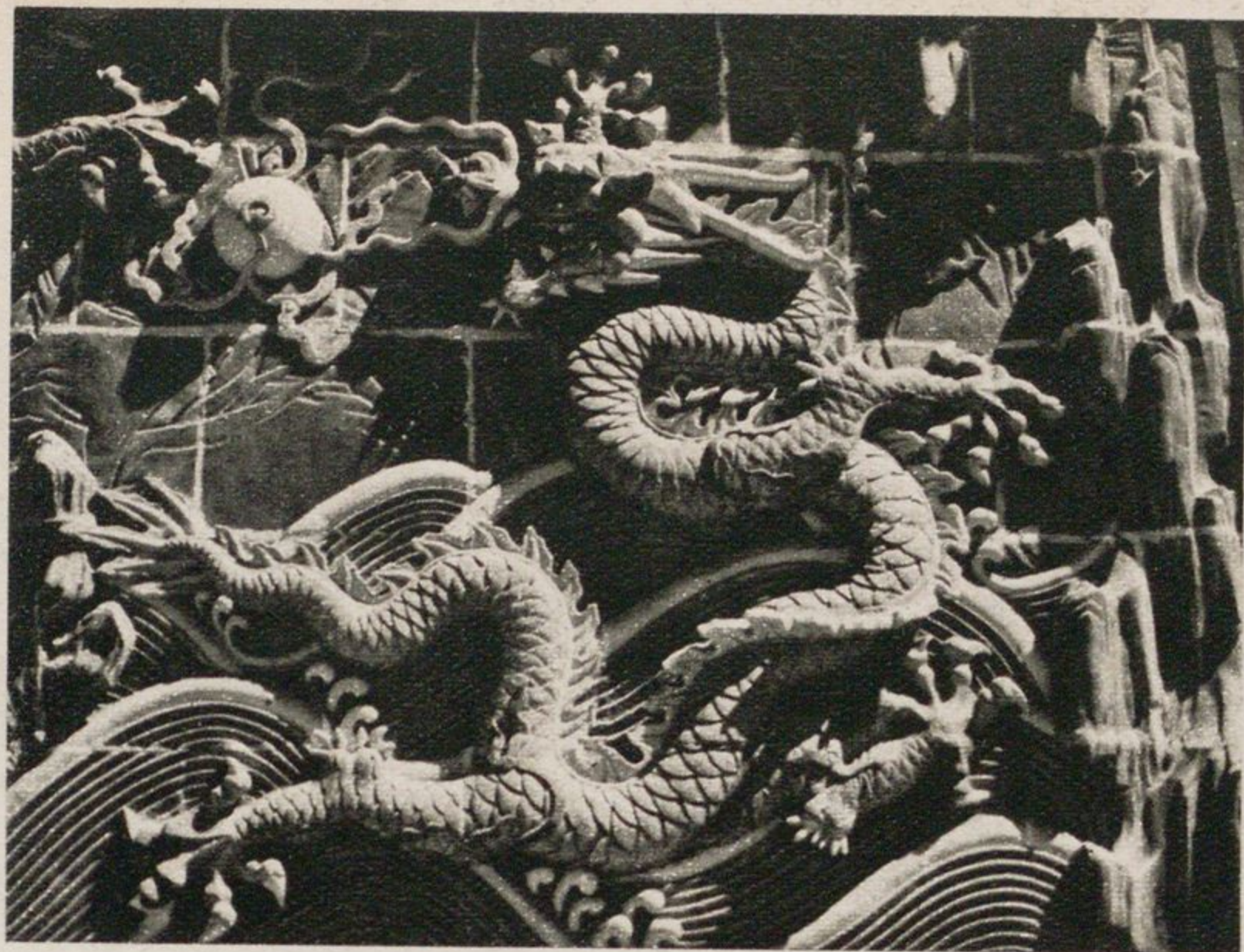
事變後奧地棉作地域の匪賊の跳梁と昨年の大水害は北支棉の收穫を極度に減產せしめ、特に本年度北支棉出廻りは百五十萬擔を超ゆることは先づ不可能で、北支紡績への棉花の配給は極度に減少するものと懸念されてゐる

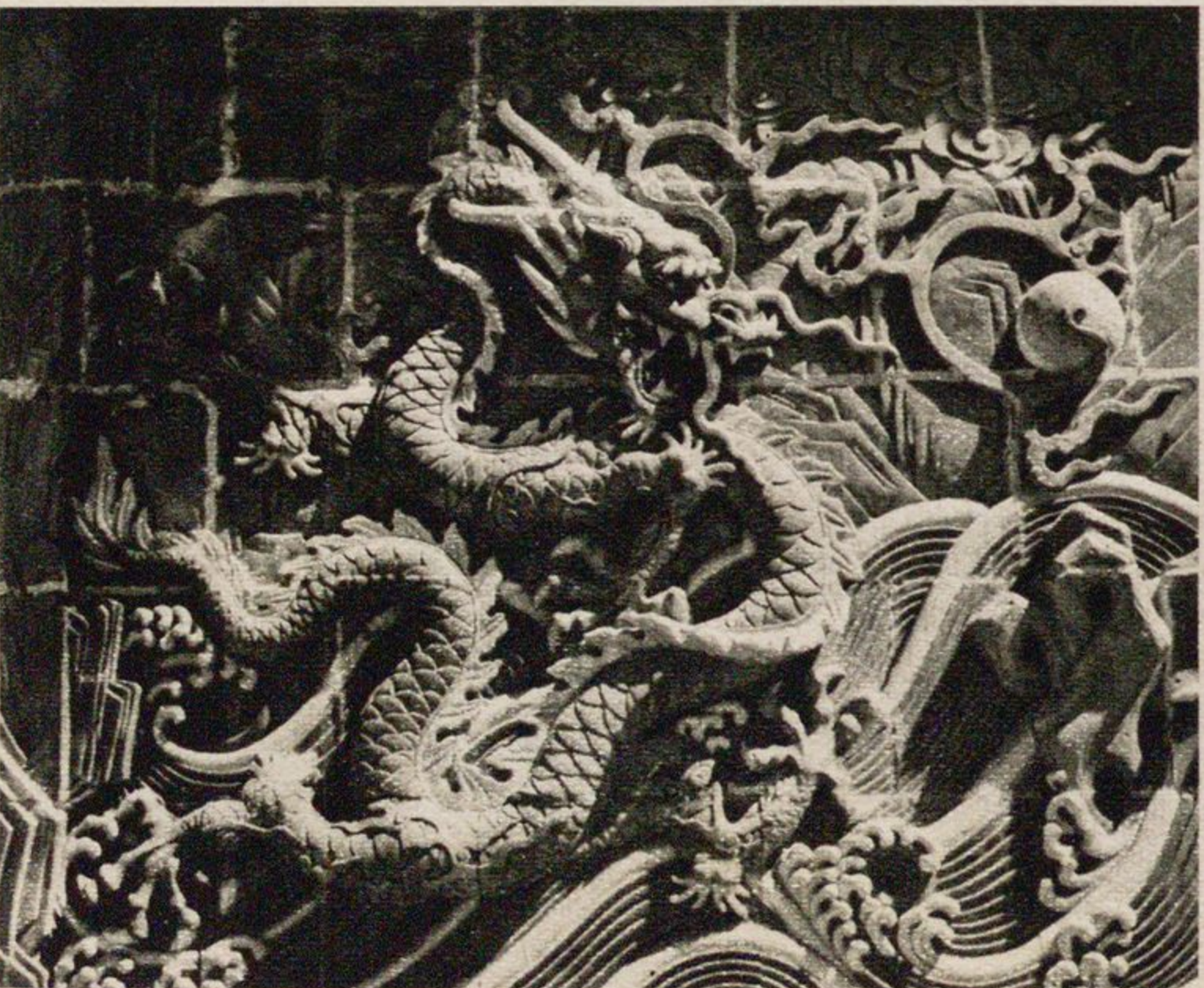
北支紡績の中心地は天津と青島であるが、就中青島は事變前已に邦人工場九を數へ好成績をあげてゐた。然るに今次事變勃發して、山東省全邦人の引揚の際、支那側は邦人財產の保護を誓約したにも拘らず、その全工場を完膚なきまでに爆破し、一朝にして灰燼と化せしめた。その後同地の治安が安定するや直ちに、その復舊に着手し現在已に事變前の五割近くの完成を見てゐる

現在天津に於ける邦人工場は七、支那側工場三、事變前の精紡機錘數（二九一、〇九六）織機臺（三、五四七）を遙かに凌駕して錘數（四九七、二八四）織機臺（八、五二九）を示してゐる

↑邦人紡績工場に働らく支那の女工—青島—

華新紡績工場—唐山—↓

九龍壁

—北京—

北京北海公園の九龍壁は、遼時代の作と云はれる。五色の琉璃瓦で疊まれた壁面に九つの龍が寫眞右上から左の順に浮彫にされてゐる

Nine Dragon Screen, The North Lake, Peking

← 運城堯廟祭の龍燈

龍

Dragons

龍は支那に於いては麒麟、鳳凰、龜と共に靈獸の一つとして、漢民族の間に非常に崇敬をうけてゐるもので、古い典籍や古書の中に多く見られる

淮南子の主術訓には「應龍乘雲而擧」といひ、說文の龍の條には「龍は天に昇り淵に下るもの、又一切の鱗蟲の長である」とされてゐる

即ち天と關係深き靈獸として、四神の一つともなり、星座の名稱ともされてゐる。尙、政治上至上の地位を有する天子とも結合せられるものである。皇宮の裝飾や天子の衣類調度に龍紋を附される昔からの傳統がある

春先きに行はれる年中行事に「龍擡頭」といふのがあるが、これは天地の陽氣が蘇がへり、萬物が生氣を帶びて活動の途につき始めるのを、龍のおかげだとした民間の信仰的行事である

北支の至るところに、龍神を祀る龍王廟があり、それについて龍の傳說も非常に多い

北京天安門前の華表

← 北京北海公園の屋根

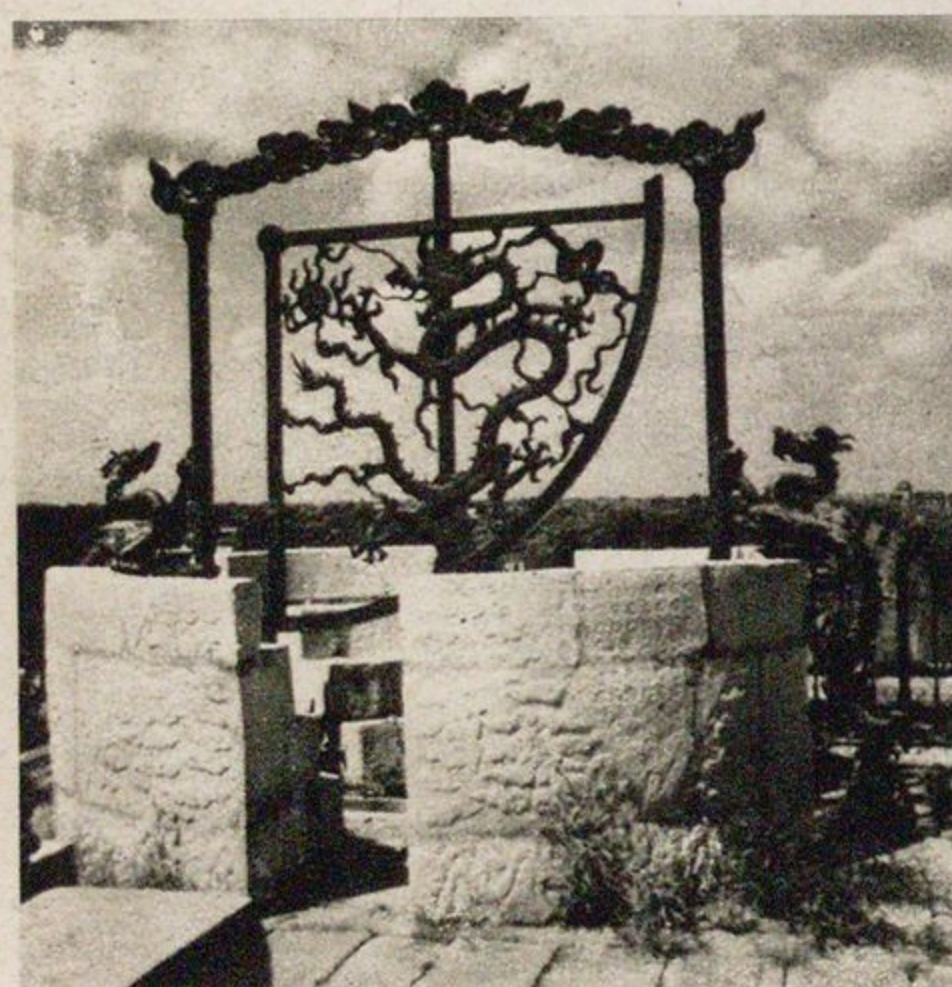
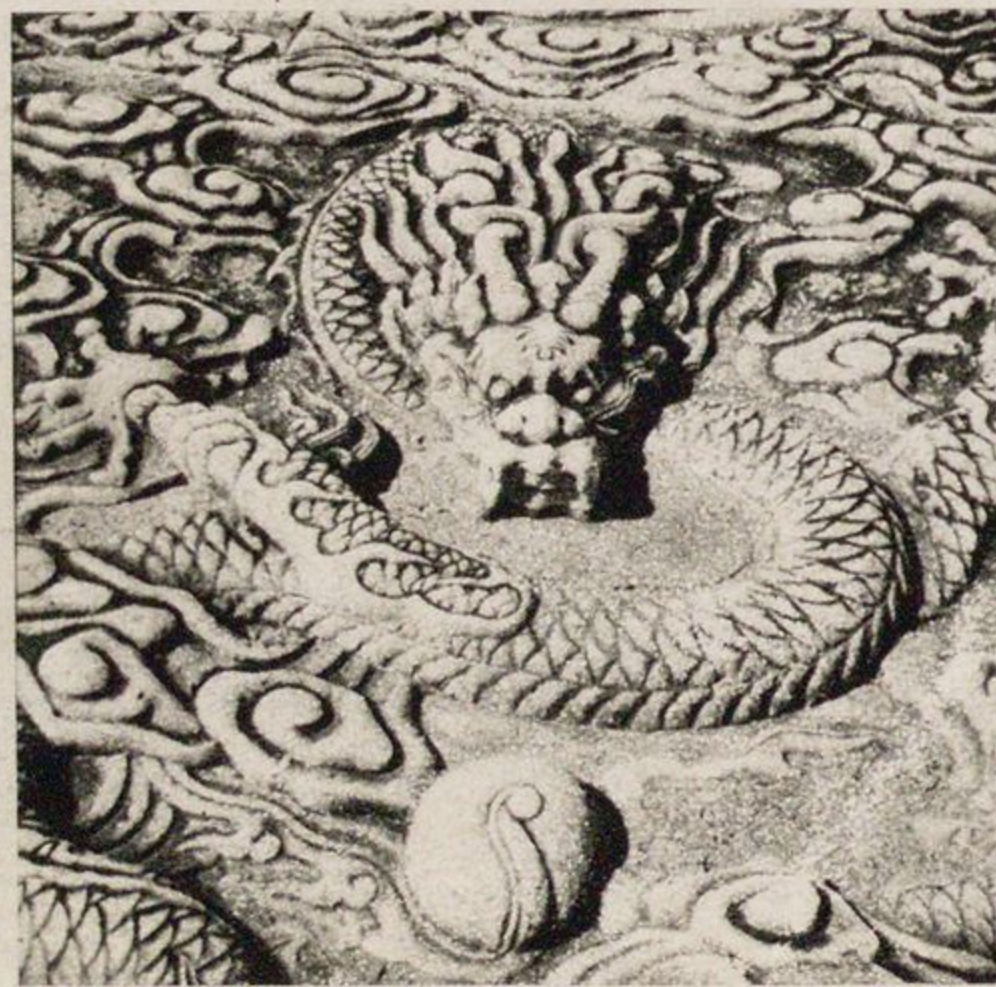
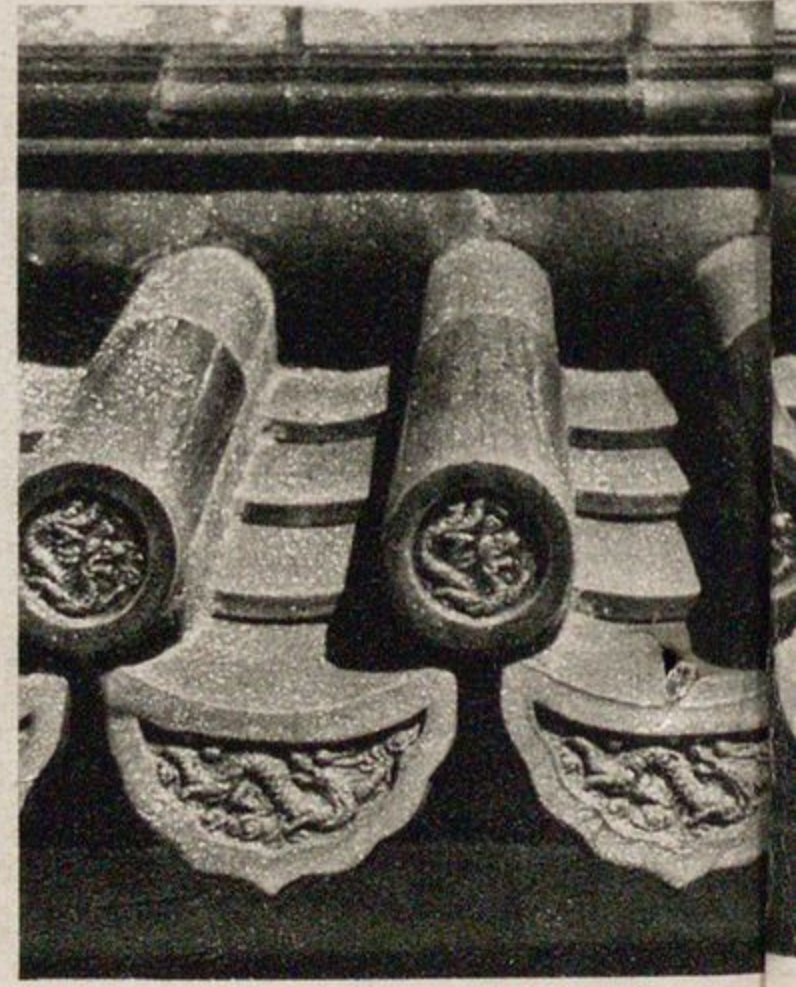
北京紫禁城保和殿內の繡圍屏

運城堯廟堯帝像前の柱

北京天壇皇穹宇の天井

北京舊觀象臺

北京紫禁城太和殿の石段中央

北京天壇の琉璃瓦

仔羊

察哈爾盟多倫牧場にて

A Lamb

鐵道實務訓練の手旗信號

地平線のはるか彼方、紅い夕陽のうすづく頃、果しなく續く二つのレールをつたつて、なごやかな合唱がきこえてきます。水色や薄桃色の大襟兒に、肩先から萠黄の襷を斜にかけた新中國の乙女達です。彼女達は今日のつとめ、鐵路の巡察を終へて、愉しい吾家へ歸る途中です。北支や蒙疆の鐵路はまだ匪賊や共産軍の妨害が絶えませんので、鐵道沿線の住民達は男も女も、老も若きも、かうして鐵路の巡察や敵方の情報を探つたり或は自ら銃劍を手にして彼等の撃退につとめたりしてゐるのです。この若い女達は華北交通會社が、鐵道沿線に組織してゐる愛護村の愛路婦女隊なのです。いづれも身元確實な新中國の子女達ばかりで年齢は十五歳から二十五歳までとなつてをります。現在のところ、各警務段所在地を中心に、一隊三十名ぐらゐから編成されてをります

更に彼女達は、愛路運動のかたはら、日本の國防婦人會とも緊密に連絡して、皇軍慰問や歡送迎、墓地清掃などにも手傳つてをり、また絶え間なく來襲する赤化思想に對する、やはらかき防波堤としての役割も果してゐるのです。餘暇には日本語をはじめ、刺繍や手藝割烹、その他一般婦人としての身嗜講習を受け、起上る新中國の女性にふさはしい教養につとめてゐるのです。この點は日本の花嫁學校に似てゐます

Girl Members of the Railway Protection Corps, North China Railway Company

鐵路を守る女戰士

華北交通愛路婦女隊

刺繡のお稽古

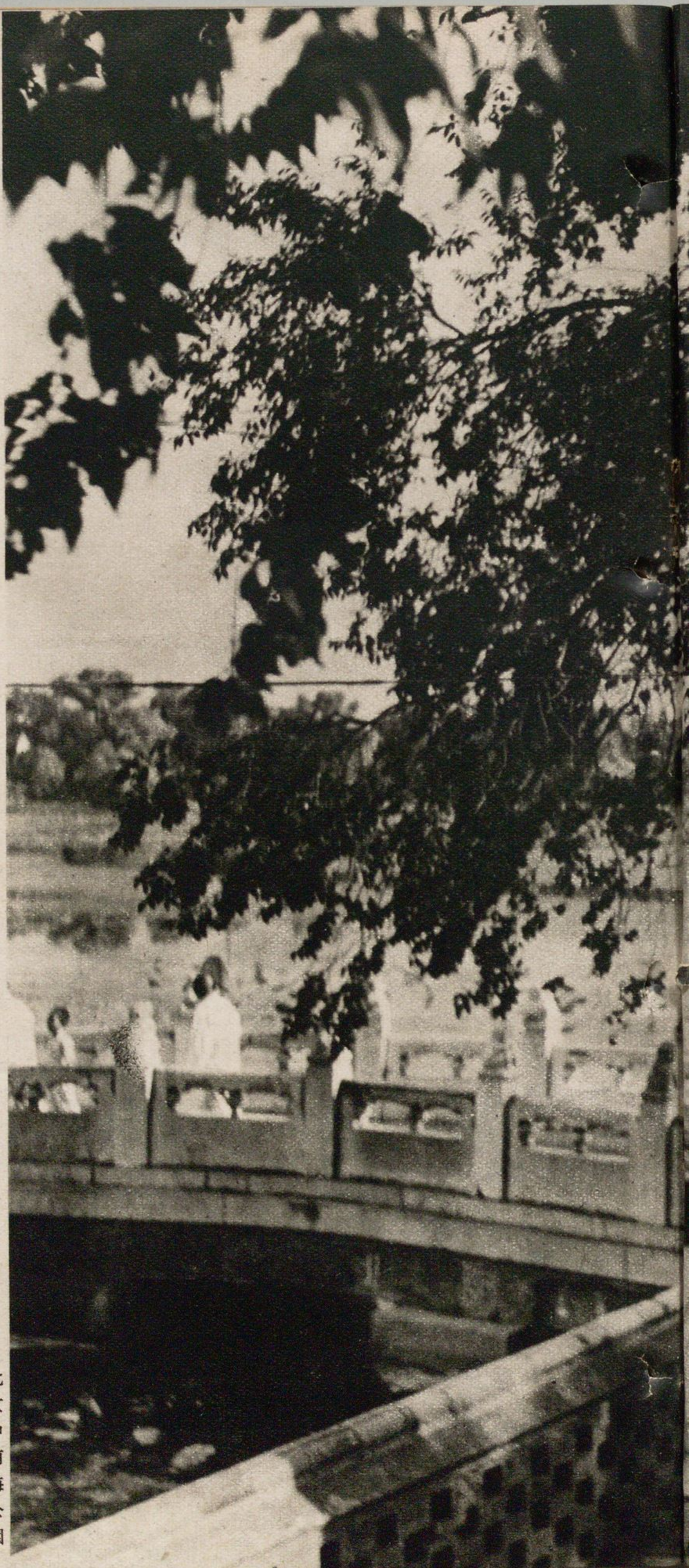
施療施藥のお手傳ひ

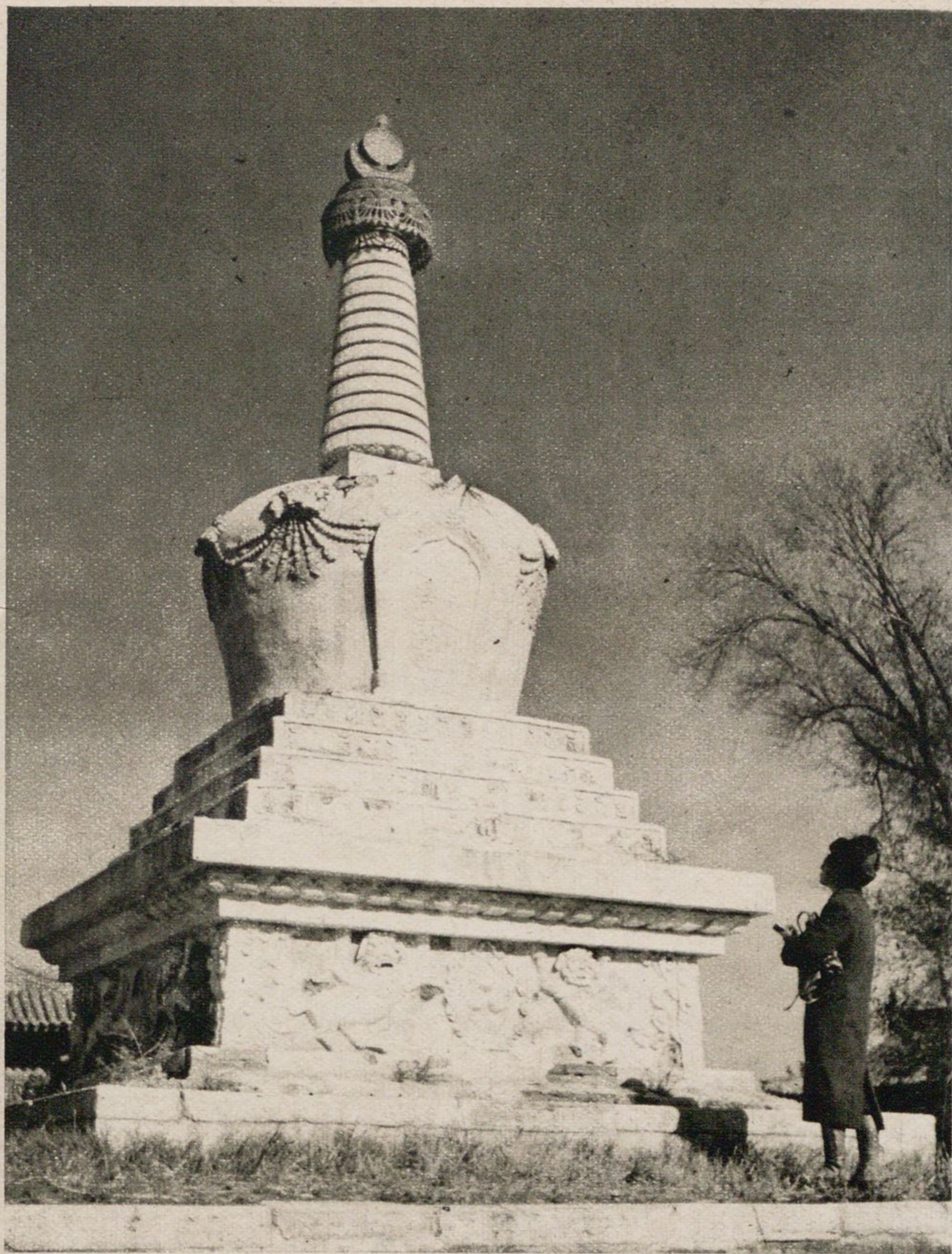
楡

北京中南海公園

The Elm Tree

子供二題

街の井戸にて

驢馬にのつて

厚和の喇嘛寺

錫拉圖召の白塔

厚和には喇嘛寺が多い

元來この地は漢蒙兩民族の角逐地で、明の中葉までは蒙古の王族が據つてゐたが、その後漢民族の蒙古民族懷柔政策の根據地となり、その居城を歸化城と稱した。更に淸の乾隆年間に綏遠城が增築され、兩城を合せて「歸綏」と稱したが今次事變後「厚和豪特」と蒙古名に改められた

漢民族の蒙古懷柔政策として喇嘛教が獎勵されたのは周知のことであり、その中心都市であつた厚和に喇嘛寺の多いのも、うなづかれる

五塔寺（塔布斯普爾罕召）は歸化城の東にあり、境內に五基の高塔を持つ建物があるので、この名がある

淸の雍正五年の建立といはれるが、現在のものは乾隆年間に重修されたものである。塔の周圍には美麗な佛像が刻まれてゐる

延壽寺（錫拉圖召）も歸化城にあり、淸の康熙三十五年の建立、光緒十三年の重修にかゝるもので、建築の壯麗なことは、此處の各寺院に冠たるものがある。この外著名なものに、大召、小召、卓爾齊召等の寺院がある

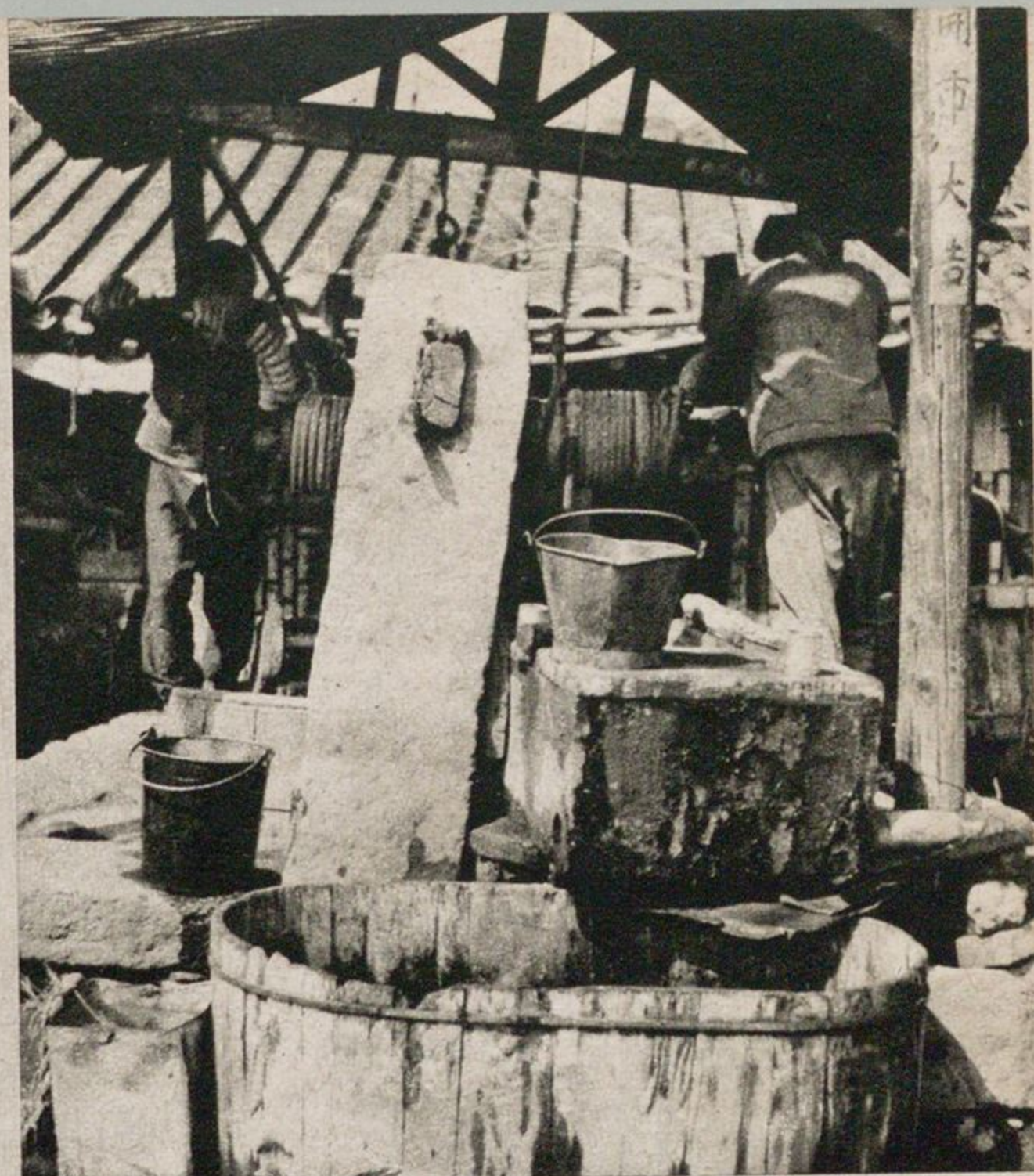
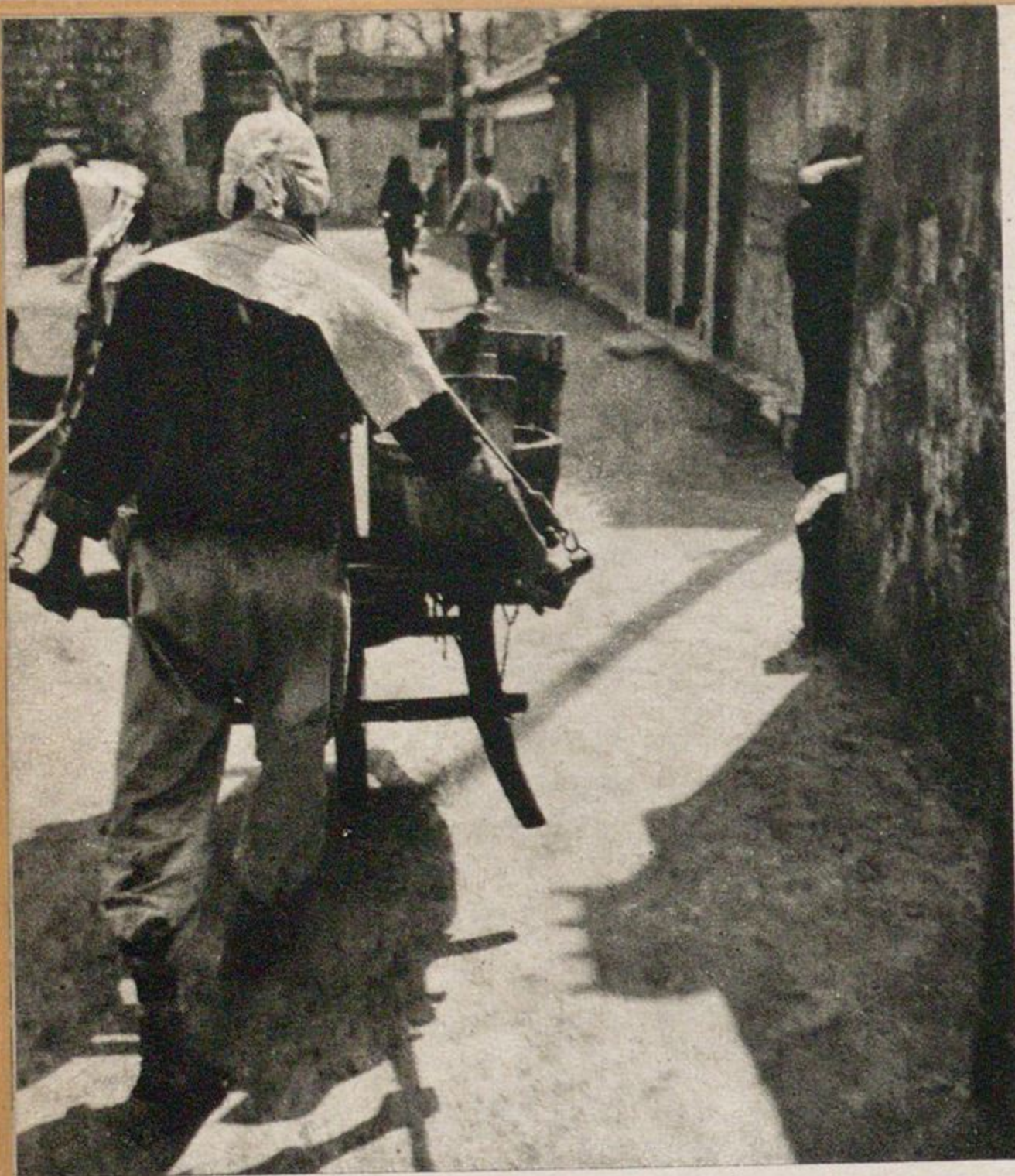
The Lama Temple, Houho

水汲用の柳の籠

井戸水の汲上げ

胡同をゆく

一輪車へ

水うり

Water Carrier, Peking

朝飯前、まだ街行く人もまばらな時刻に、ギイイギイイとまのびたやうで耳を抉るやうな一輪車が胡同から胡同をのして來る。車の兩側に長目の水槽が二つ、それをよちよちと腰に調子をとりながら、水を賣り歩く。

けれどもこの長閑な一輪車のかげには水閥と云つて、いかめしい繩張がある彼等の繩張、卽ち販賣區域のことを「水道」と云つて、大きいのは四胡同（露路）から五胡同、小さいのは二、三胡同位に亙る。「水道」の持主と井戸水の持主は全然別個で、「水道主」は井戸主から水を買ひ、之を市民に轉賣する仲仕のやうなものだ。「水道主」は普通七人乃至十人の水夫（水運び人）を使つてゐる。「水道主」は、井戸主から一ヶ月二、三圓か四、五圓位の使用料で契約するのだが、水夫一人一日の賣上は十二車乃至十五車で三、四圓位になると云ふから大したものだこの頃日本人の水道利用者が漸增の狀態なので當局では着々と需要に應ずる手筈を進めてゐる。

北京鐘樓の前にて

兒童供月（子供だけのお月見）

中秋節

北京の夏の蒸暑さは東京とよく似てゐる。そんな時期があるのです。けれども八月も半ば過ぎるとぐつと涼しくなり、空は愈々澄渡つて來ます。清涼の九月、夏弱りもそろそろ恢復して食慾進む頃、中秋節の聲をきくのも樂しいものです。九月と云ふのは新暦で、(今年は十六日)むろん舊暦八月十五夜のこと。段々お月様が圓くなり、

中秋節が近づくと、街のあちこちに色鮮かな兎の人形を賣り出します。これは兎兒爺と云ふ泥作りの人形で、兎は武神となつて、金の杵を持ち、麒麟や虎や馬に乘つてゐて勇ましい。子供達は之を買つて歸り、十三夜になると中庭にお祭して供物をします

大人は大人で、祭壇をこしらへ、月亮馬兒(上に諸神、下に兎のゐる月の宮を描いた繪刷紙を張つたもの)を飾り、卓子の上には線香、蠟燭、酒、果物、紙錢、それからこの祭に特別の月餠(砂糖と果物や肉を合せた餡入の菓子)を供へます

このお祭は女がすることで、男は拜まぬことになつてゐるが、此頃は、自由のやうです。さて十五夜の滿月が中空に昇る頃、拜月の禮がすんだら月亮馬兒を焚いて、供物を下げる。さうして一家仲良く月見の宴をひらきます。この時家族の者は互に祝うて、林檎(特に團圓果と云ふ)を食べる。

それで中秋前には林檎が澤山街に出て、いつもより高いやうです

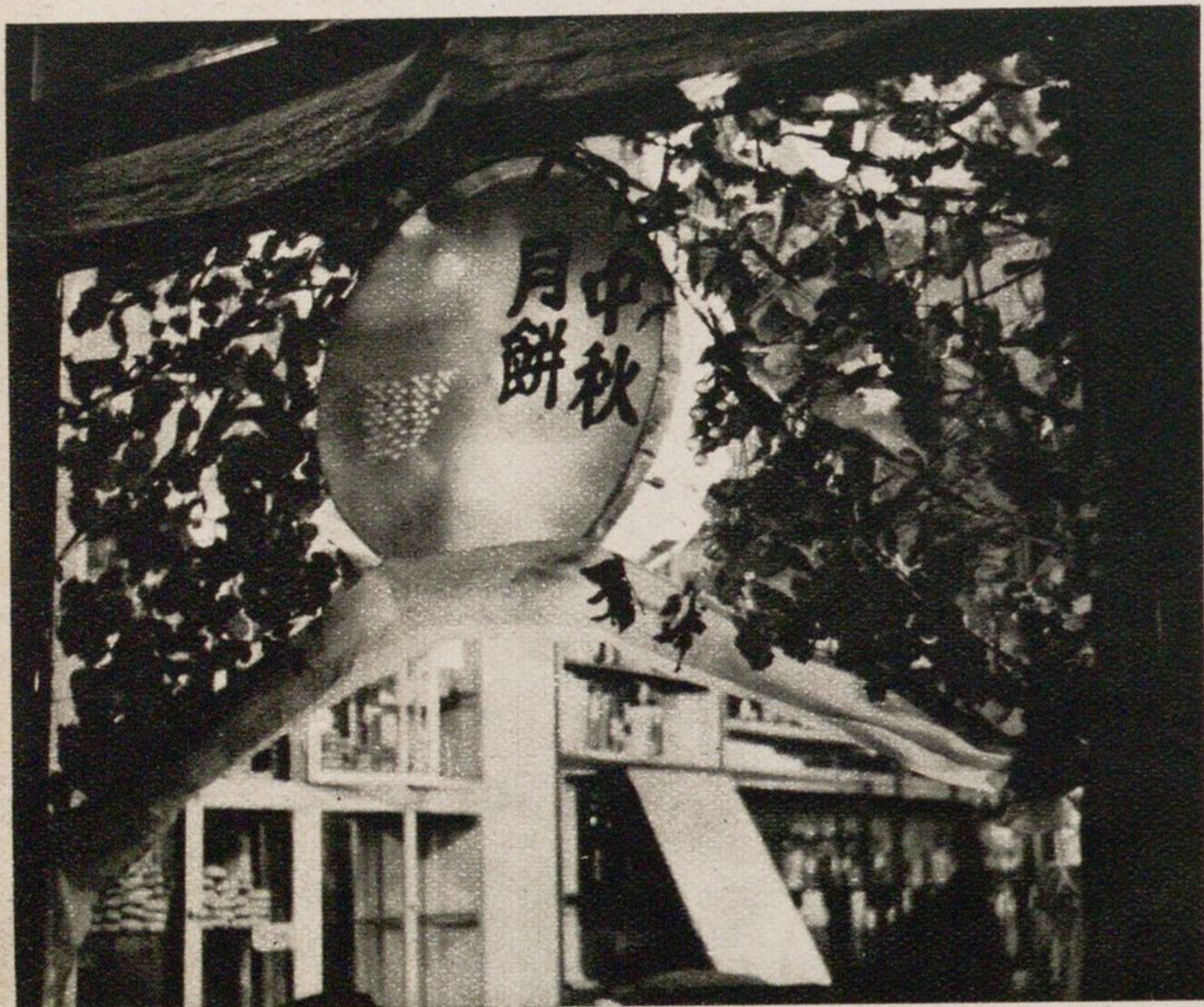
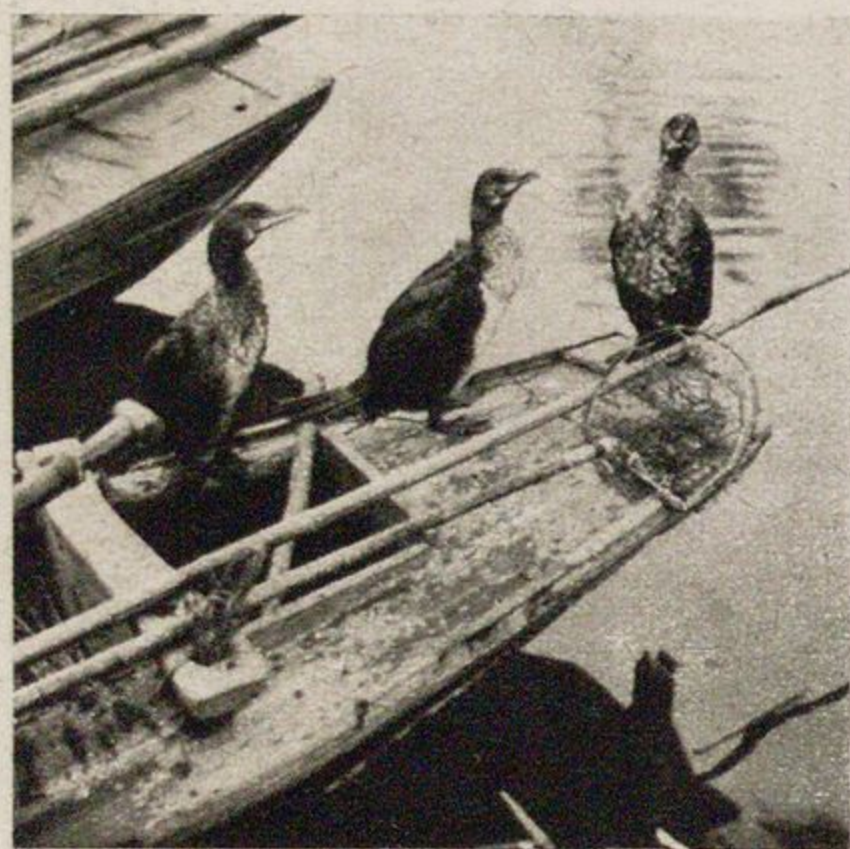
↑中秋節のお菓子を賣る店の廣告ー北京ー

↓中秋節前の街の賑ひー北京ー

Harvest Moon Festival

徐州の鵜飼

鵜飼

Cormorant Fishing

日本の鵜飼は夜の漁火を灯してなかなか風情がある。近藤浩一路描くの鵜飼圖も出來るわけだが、大陸の鵜飼は晝間が多い。北支は天津の白河、塘沽、南北運河一帶に盛で、事變に名高い徐州も然り、此頃は北京北郊の清河鎭で鵜飼を復活、農民の副業を兼ねて旅人の情を慰めようと云ふ噂です。デビュウしたら又北京名所が一つ殖えます支那の鵜は晝間が得意ださうだが、白日の下に行ふ鵜飼も明朗なものである。日本のやうに手綱をつけることなく、手放しにやるのも大陸的なよいところ、鵜はよく訓練されたもので素直に獲物を啣へて歸つて來ます。銀鱗の日に映ゆるもよし、舟に上つて濡羽をつくらふ様子も魅力だ。鵜匠はおそらく、あの街頭によくみる小鳥馴らしの熟練と同じくやるのであらう。悠々としてせまらない。驚いたのは天津白河の萬國橋下で白い鵜をみた。日本にも居るか知らぬが、鵜も黒ばかりではない、と發見をしたのです

支那で鵜飼のことを俗に「魚鷹子」と云ふのは「水の鷹狩」とでも譯しませうか、日本でも鵜の眼、鷹の眼と云ふから、やはり鋭い眼玉に違ひない。天津の白河は黄土色の急流ですが、鵜は平然と鯰や雑魚を捕へて來ます

將來日本人が殖えて何れも觀光資源と云ふことになるでせうが、その是非論ずべからず、但しあんまり迎合さすことは感心しない。例へば滿洲吉林の鵜飼はあるがままの野趣を失ひました

北京護國寺廟會の市

柳の籠

（手工業）

Basket-Work

水も溜らぬ籠つるべ等と、日本では籠に酒や油を入れるといふと一寸不思議な感じがするが、支那には昔から酒籠があり油・味噌の籠があつて、今でも盛んに用ひられてゐる

井戸のつるべから柄杓・壺のやうなもの、箕・行李・果物入まで多種多様で酒や油の貯藏・運搬に使はれるものは内と外に桑皮紙を貼り桐油を塗つて洩らないやうにしてあるが、柄杓や、つるべは編みつぱなして、ざあ〳〵といふ程でもないが、ぼた〳〵よりはひどく水が洩るのを平氣で使つてゐる所は大陸式である

値段が安く運搬には輕いといふわけで近代的輕工業製品の侵入を頑强に拒否しつゝ、未だ各地に亘つて愛用されてゐる。南竹北荊（荊は柳條）といつて北支では畑の境界に植ゑる柳を材料とし南方では竹を使つたものが多い

農村の家內工業として副業的に廣く行はれてゐるが、製品は廟會（お祭り）の市で賣出される。細工の難しいものは「山貨屋（サンホオウー）」と稱する專門業者があり北京では前門大街に多い

↓油や酒を入れる籠

穀物入の籠→

↑油や酒を入れる小籠

野菜籠→

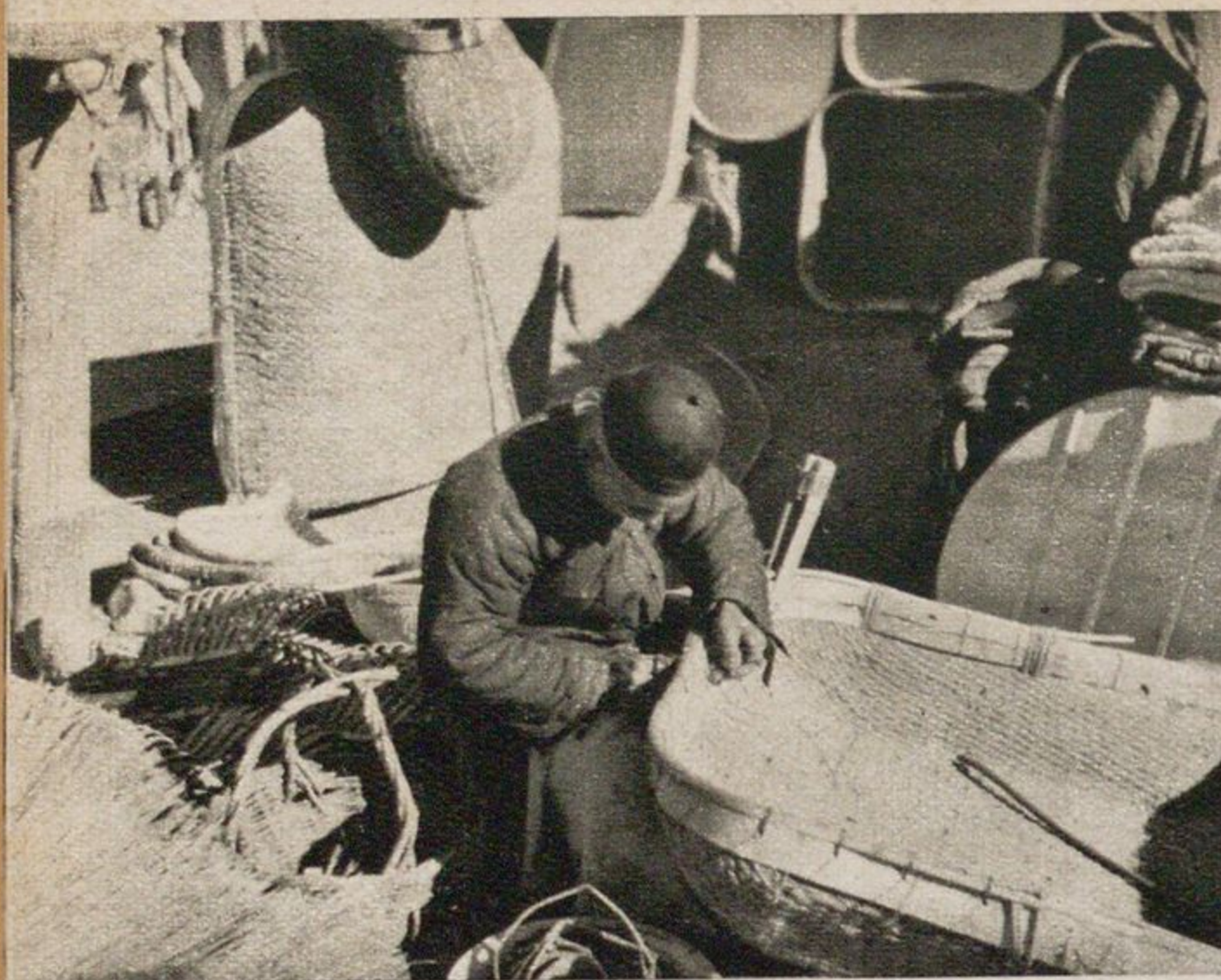
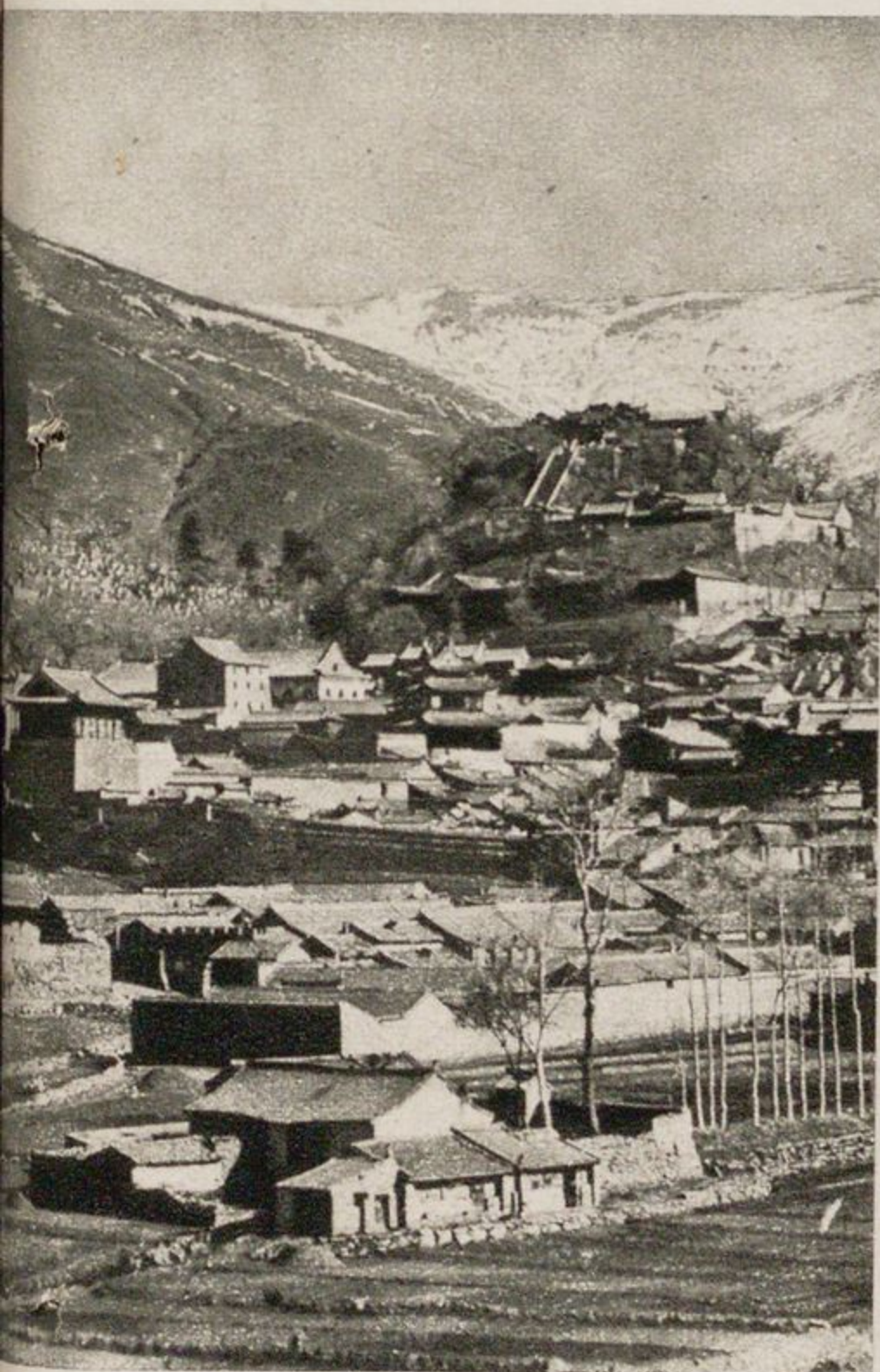
↓雜貨鋪の店頭

大きな歴史 小さな歴史

Photo Flashes from North China

北京神社の鎭座祭

六萬在留邦人が心のふるさとゝして御造營を急いでゐた北京神社は東城貢院に白木造りも神々しく先ごろ竣工、六月二十四日鎭座祭を施行した御祭神は天照大神明治天皇國靈大神

聖地五臺山の復活

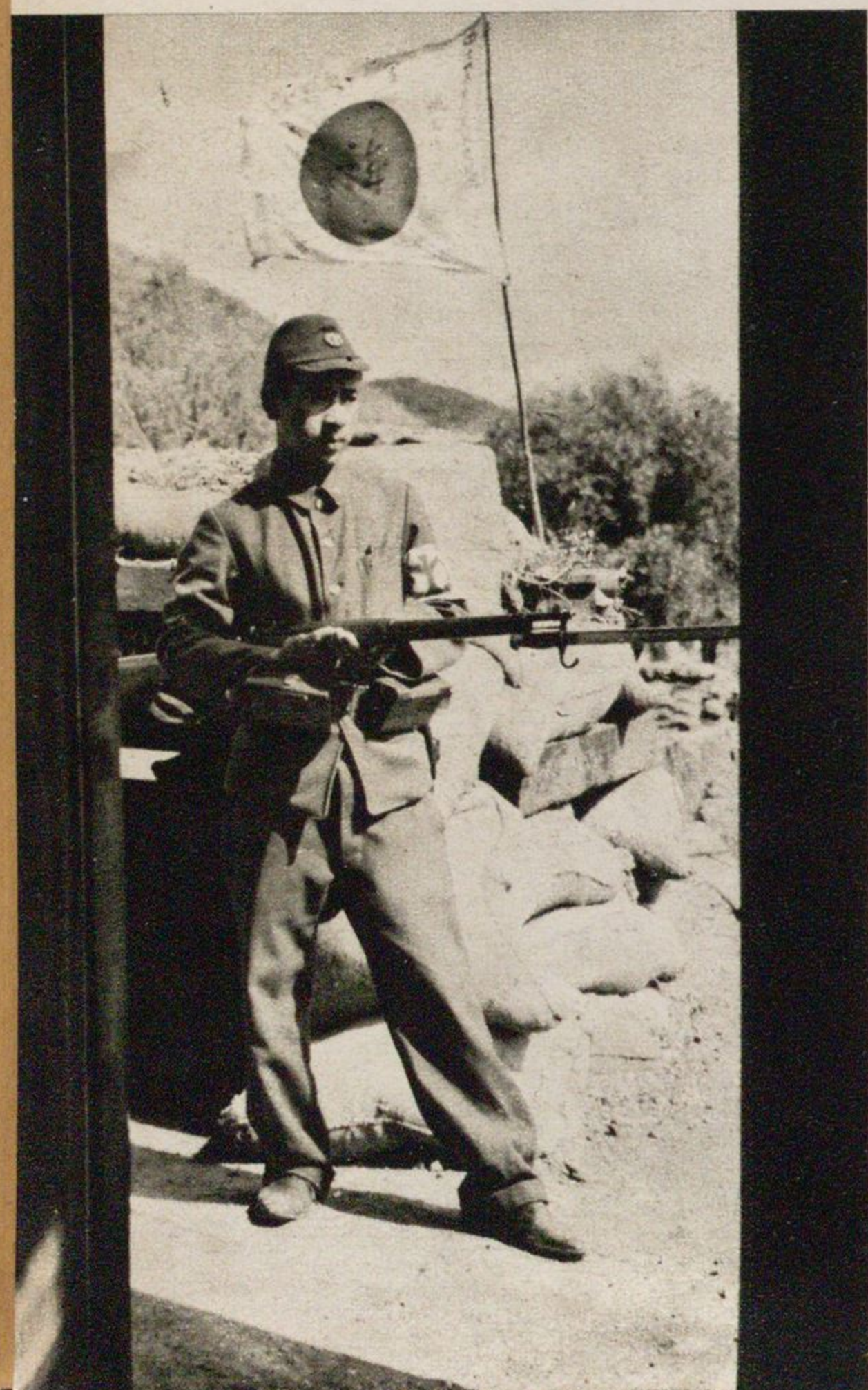
支那五億民衆の聖地として有名な山西省五臺山六月祭は事變以來中止されてゐたが、現地軍の努力によつて七月

三日より民衆の熱望に應へ復活され、參詣者十數萬に上つた

▲一文字山の事變三周年記念大會

支那事變三周年記念日の七月七日、事變發生の地蘆溝橋畔一文字山に於いて日本人大會が催された
この日、參加の在留邦人は北京より徒歩行軍せる六千名を合して二萬名を數へた。戰歿將士の莊嚴な慰靈祭等を擧行し、現地興亞週間の第三日を飾つた
又中國北京市民は之に呼應して故宮太和殿前にて興亞民衆大會を催した

◁華北交通支那事變行賞上申三萬名

北支蒙疆の水陸交通の完成整備に邁進しつゝある華北交通では、社員功績者に對しこの度支那事變第一次論功行賞上申の恩命に浴した。今事變勃發以來皇軍將士と形影相伴ひ硝煙彈雨の前線に先驅列車の運轉、通信網の保守、站舍線路の警備にあたり既に殉職せる社員は六百名の多きに上つてゐる。尚この度の上申の光榮を受くる者は三萬餘名である

北京 萬壽山

中國共産黨の農村工作

小松健三郎

はしがき

廣義國防國家の建設が日本に課せられた重大問題であるならば、これが完遂を期し、早急なる實現を圖るためには、政治經濟文化の諸工作は北支を據點とし、北支を强大なる一推進力たらしめねばならぬ。殊にその中核をなすものは治安問題であり、防共問題である。換言すればソ聯の動向であり、その尖兵として活躍しつゝある中國共産黨である。彼等は執拗なるゲリラ戰術と民衆獲得工作に汲々として抗日の迷夢を追つてゐる譯であるが、その具體的な内容を僞縣政府の內幕から覗いて檢討して見よう。

一

昭和十二年四月、所謂邊區に於て臨時共産黨全體會議が開催され普選條例を頒布。その後僞縣政府管下の各鄕村に選擧委員會が組織された。同七月より約三箇月半に亘り全區大會の選擧が行はれたが、共産黨の記錄に依れば精神病者、犯罪者を除く十六歲以上の男女は總て有選擧權者で、この資格者中事實上棄權せるものは僅かに二〇％、當選代表者の約九〇％は抗日積極分子と工農分子で、婦人も少なからぬ數に上つてゐる如く宣傳してゐる。然し果して彼等の吹聽する如く普選の眞義に基く民衆の眞の代表者が選出されたであらうか？　毛澤東が述べてゐる如く選擧有資格者たる大部分の農民は擧手を以つて投票に換へねばならぬ程の文盲であり、殊に阿片とモヒに耽溺して生活の改善等に對しては特殊の運命感と諦念とを抱く連中であり、手工業者と雖も未發達な彼等が、率直に各種具體的な救國法案を討論し得よう筈はない。從つて事實上は農民大衆の心理と隔絕した一部抗日積極分子、卽ち共産黨の謀略工作であり、欺瞞政策なのである。普選はいはゞ惡辣巧妙なる政治的技巧の表現である。前述した如く

（一）唯々諸々たる豪紳地主階級を壓迫する口實を普選運動中に求め、

（二）普選を利用して自衞軍を整理、八路軍慰勞、抗日軍人家族優待など抗戰動員工作を推進し、民衆に過重の負擔を課し、

（三）普選の大成功を虛々實々に宣傳することに依り國民黨を攻擊、全支民衆の支援を失はしめんとする意圖に出たことは推察に難くない、かくて僞縣政府を始め各鄕各村は、何れも政治指導員、軍事宣傳工作員の巧妙なる手段により民衆をリードしつゝあるが、從事する工作員の系統及び幹部の養成は、大體次の如き方法でなされてゐるものと觀察される。

（一）モスクワより派遣されたもの――モスクワ共産大學卒業後北支に派遣されたもので、主として黨組織乃至民衆組織の最高指導に任じてゐる。

（二）抗日大學を卒業せるもの

綏東事變前後より全支に漲つた抗日の風潮に棹さして左翼學生連の尖銳分子が卒業後活躍したものであるが輓近は殆んど學生もなく、閉校されるもの相次ぐ實情であるが、一應紹介すれば、

（イ）抗日軍政大學――中央ソヴエ

内容

ート時代の紅軍大學を改組したもの、陝西省延安府にあり、林彪を校長とし、一時は全國流亡學生男女を收容したが、現在は共產分子のみとしてゐる。

(ロ)陝北公學——上海事變後設立され、成仿吾を校長とし、民衆工作、救亡統一戰線工作に必要な幹部養成を主眼とする、陝西省にあり、就學期間は約二箇月である。

(ハ)中央黨校——ソヴェート時代既にあり、黨の最高幹部の政治訓練を目的としたが漸次軍事訓練も實施、毛澤東を校長としてゐる。

(ニ)魯迅師範——普通中學程度の實際工作に重點を置いてゐるもので、土志刁を校長とし、活躍したが、現在は閉校してゐる。

(ホ)八路軍家族學校——胡德蘭が校長となり、八路軍の家族のみを收容してゐる。

(ヘ)マルクスレーニン學院——毛澤東を校長とし、陝西省にあり、共產分子の訓練をなす。

(ト)特工訓練班——嘗ては山西にあつたが、皇軍の目覺ましき活躍により消滅した。

(三)政治軍事訓練學校

各八路軍系部隊の直轄指導の下にその地方により青年を徵發して、短期間の訓練をなさしめ、後縣政府下の農村に直接派遣せしめる。

(四)流亡學生教師ジャーナリスト母校を喪失せる學生、職なき教師、抗日で固まるジャーナリスト連で、一種の組織團體の結成により工作員として活躍してゐる。

以上、かゝる各學校の中にも夫々藍衣社の僞裝學生が密偵として相當入り込んでをり、僅か二箇月にして藍衣社系に暗殺された共產分子二百數十名のレコードを作つた實情に徵し、明かに自繩自縛の行爲さへ敢て執つてゐる。

二

抗日僞縣政府は遊擊戰時に於ける經濟對策として、今次事變により四散せる農民を急速に復歸せしめ、同時に彼等の基本的課題たる民衆動員の實現を企圖して「彼等に必要なる物的資材の獲得及び生產力の擴充增大を圖るためには、先づ沒落過程を辿りつゝある農村經濟の復興を緊急なる當面の問題」となし、昭和十三年二月開催された代表大會の席上に於ては、農業經濟建設計畫が相當に審議されたが、その決議案は大體左の如きものと推察される。

農業經濟建設計畫

一、所謂邊區政府の灌墾荒條例の公布を基礎とし僞縣政府に於ては官荒及び私荒をとはず、農民に對し自由開墾を準許する。而してこれが急速なる發展を促す具體策として、戰時中は次の期間地租稅を入納せしめぬ方針をとり、更に不勞地主に對しては發言權を封鎖する。

二、各地の農會及び各種別群衆團體を基礎とし、農民難民失業者を以つて各墾荒團を組織せしめ、適當なる耕地を與へて開墾に從事せしめる。

三、僞縣政府は新たなる荒地の發生を防止するため、今次事變により生產半數を失つた一般農民に對しては農具を貸與、種子を配給せしめ、これによる生產力の增大を圖る。一方遊擊隊に加入してゐるもの乃至は傷害を受けたことによつて所謂生產能力の不可能になつた家族の土地に對しては、農會がその直接指導に當つて代耕隊を組織する。

四、僞縣政府は農業の生產條件を改善する必要に迫られた結果、一般農民に對し、一見最も合理的に見做される苛捐雜稅の廢止及び減租減免を提唱した。

五、春期にあつては、春耕運動を農民に對して大いに獎勵する、一方菸草の如き商品農產物の植付を漸次減少せしめ、反對に食用農產物の播種を多角的にまた大量的に行ふ必要を力說して大いに獎勵する。

六、その他農業生產技術の改善を始め農業金融機關の設備及びこれと併行して農業倉庫の經營を計畫する。

以上の如き決議案に基いて農業經濟の改善及び生產力增大の諸問題は推進される方向にあるものと一應は肯定されるが、彼等僞縣政府の地理的環境即ち特殊的な性格及び農民の理解力が著しく低下してゐる實情に徵して見れば一種の空念佛に過ぎない。即ち空念佛である實證はかゝる政策が樹立されたにも關はらず僞縣政府內の農民生活は一歩も改善されてゐないばかりでなく寧ろ邊區內ではおびたゞしき物資の缺乏に喘いでゐる實情にある。

僞縣政府はまた物資の自由なる移動を喫要な問題となし、自由貿易の提唱對外貿易に意を用ひてゐるが更に貿易統制の問題に對しても裕民公司を新設してこれが徹底を期するため、各地に必要に應じ貿易局の分局を設置、商人相互の競爭私益の現象を糾正することに努めてゐる。然し前述の如く物資の缺乏は益〻深刻化し一般農民の不平は高揚され既に或る地方では暴動化しつゝある。

筆者は滿洲日日新聞東亞部員

北支の農村 15

綠化

みづの・かほる

一度青島を訪れたものは、何人も異口同音に、その地の風光明媚なるに驚く。これもとより天惠の恩澤、山、海、島の織りなす自然美の然らしむるものであるが、もしもこの地より鬱蒼たる森林をとり拂つたとしたらどうであらうか。げにこの森林こそかつて獨逸が遠大なる計畫の下に巨費を投じ、幾多の辛酸を累ねて當時磽角荒瘠の地の綠化に努力した賜である。

筆者も幸ひ事變前、この地に二箇年餘りを在住し、春の櫻を賞で、或は裏山の日本樹種、ケヤキ、スギの亭々たる樹林を撫して、遙かに母國の山河を偲び、鄕愁を慰められた一人である。

蓋し今日青島が、北支の門戸として、吾々同胞が大陸進出の據點として大をなしたるものも、言はずもがな地理的經濟的諸條件を具備することにあるのではあるが、一方又この森林が、この森林による自然美が、不知不識の間、住むものをして土地への愛着心を驅らしめ、精神的に日本人安住の要素となり、この森林が青島に於ける日本人發展のかくれたる功績者だと、誰か斷言し得ない者があるであらうか。

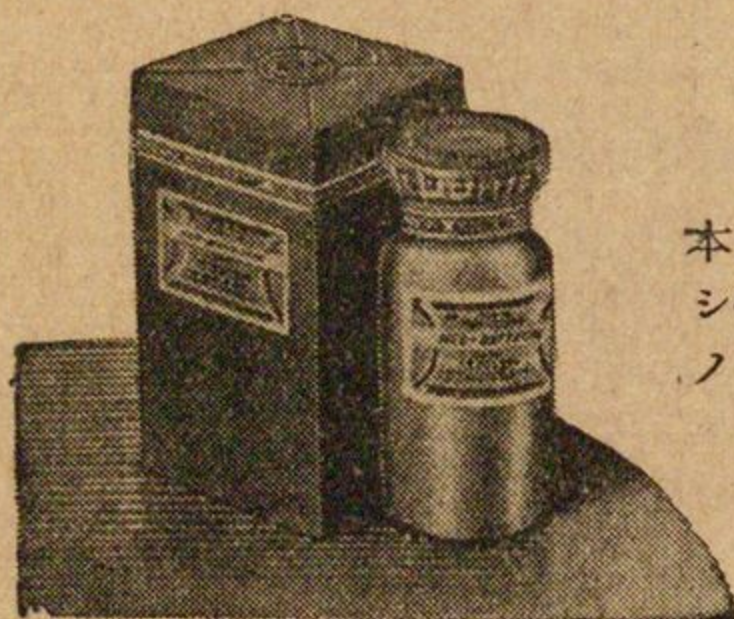
何人も云ふ「青島なら永住して見たい」と、かく言はしめるものは、單に紺碇の海がいゝとか、青島は母國が近いからとか言つたものに歸すべきであらうか。否然らず、この青島の魅力こそは實にこの自然に配合された森林美のよさにあると筆者は思ふのである。

筆者はこゝに、大正七年四月林學博士本多靜六氏が、青島守備軍の囑託を受けて來青せられ、管內外の森林の視察を了し、滯在されたるを機會に青島市民の請を受け、四月十四日同公會堂に於て、講演せられたる筆記の一端を讀者に披瀝したい。

「諸君、私が曩に獨逸が當青島の經營に著手せる際、これが造林上の相談に預り、今より十餘年前にこの地に渡り、今又私自身が曾て選定して迭り越したる我がクロマツ、クヌギ、ケヤキ、サクラ其の他幾十種の日本の樹木がかく繁茂せるを見、この地が新たに日本領土となり、而も日本の花の代表者たる櫻は將に笑はんとするの候、再びこの地に來り、かくも多數の同胞諸君の前に、一場の講話を試み得るは、私の實に欣快とする所であつて、又そゞろ今昔の感に堪へざるものがあります」

大正七年と言へば二十二年前のことであり、更に本多博士がそれより十餘年前に渡支されたと言へば、實に今を去る三十有餘年前の昔である。

當時獨逸は、故國を遠く離れて東洋の一角青島に、彼等の基地を建設するに當り、先づこの地の綠化に專念した。人を植ゑんとすれば先づ樹を植う。筆者は獨逸が植民地の經營に際して、樹と人の生活が如何に密接不離の關係にあるかを心得、これを信じて以つて敢行するところに絶大の敬服を拂ふものである。更に造林を行ふや、彼等のもつ深遠なる科學と經驗とは、又吾々に大きな教訓を與へてくれる。

獨逸は御承知の如く、造林に對しては日本などより遙かに先進國であり、先輩である。日本の林學の研究進歩が彼獨逸のそれに啓發されたものであることは知る人ぞ知るところである。然るに獨逸としても、自然條件に於て又樹種その他に於て全く相異る東洋の造林には未經驗者である。さればこそ青島の造林に對しては極めて愼重なる調

査研究の下に進められ、この事が本多博士の招聘とはなつたものである。

樹を植うるは百年の計、この大計を實施するに當つてとられた如上の獨逸の眞摯な態度は、まことに見上げたものので、今日吾々日本人が北支の綠化を叫びつゝも、一にも櫻、二にも櫻などと、土質に氣候に樹種に、そして北支の人情風俗にあまりにも無關心に櫻を移し植ゑるものとは、そこに大きな相違のあることを思ふ時、筆者は獨逸のそれに引き比べて、いさゝか心淋しさを感ずるのである。

筆者は青島在住の折、暇ある毎に裏山を跋渉して、あの瘠薄な表土の薄い磽角の地に、よくも今日見るが如き美林が造成されたものであると、今更獨逸の拂つた努力に又驚嘆せざるを得なかつたのである。

當時獨逸の行つた造林苦心談として殘されてゐるものに、次のやうな物語りを耳にしたことがある。支那人は何人も知るやうに、造林觀念が薄く、愛林思想に乏しい。折角植ゑた木が、夜の間に引き抜かれて薪とされるといふ有樣であつた。これを戒めるために、松の木一本を切つたといふとがで、尊い人命を極刑に處したことさへ一再でなかつたと言はれてゐる。しかし吾々は、その木一本のための殺人の非人道さを非難する前に、先づこの獨逸のとつた嚴然動ぜざる綠化工作に對して三省したいと思ふのである。

博士は又かく言つて居られる。「その國に於ける林相變化の狀態は、最も正しくその國の過去の歷史を物語るものであり、又最も正しくその國の將來の運命を示すものであります」

「この度山東省に來て各地を調査し、林相變化の概況を究め得て、之を四千年來支那國運の消長變遷に徵し、更にその感の切なるものあり、移して以つて我國々運發展上の殷鑑となすに足るものがあります」

まことや國亡びて枯骨の山、涸渇の河あり、農産國北支が今日の窮狀を見つゝある所以のものも、一に山林の荒廢に起因するものであると、博士は絶叫されて居るのである。

「諸君、支那全土の山野の現狀は如何でありませうか、獨逸の山には樹木が繁茂せるため、水源は四時滾々として盡きず、常に河川は深く水流は清い。然るに支那の河川は悉く土砂に埋れ、平時は一滴の水も無く、雨期に到らば氾濫し、一朝にして良田も荒野と化して了ふ。その昔二千百餘年前、韓信が背水の陣を敷きたりと云ふ微水の如きも、その頃は水も深かりしを知るべく從つて山も青かつたでありませう」

博士はかく山林の荒廢を嘆じ、「今日なりせば、背水の陣を敷くによしなかつたであらう」と、愉快な譬喩を飛ばされてゐる。

獨逸はその後、膠濟沿線に綠化を試みた。このことも事變前この地を通過された人は、等しく記憶されてゐることであらう。あの驛舍を包んでゐたアカシヤの森は、廣漠たる平野を横ぎる旅客にとつては、車窓への何よりの贈りものとなつてゐたのである。

ある人の話に、膠濟線の枕木は最初鐵材をもつて造られ、これの壽命の盡きる頃、このアカシヤ材をもつてこれに代へるべく計圖され、造林されたものであると言はれたことを聞いたことがある。或は獨逸人のことだからやりさうなことではある。

このアカシヤも事變のため伐採されたが、三十の樹齡を累ねたアカシヤは直徑尺にもあまり、これが貴き木材資源として、今次事變に大きな役割を演じたことは云ふまでもない。

筆者は思ふ。獨逸は敢へて青島や驛の綠化に止まらず、山東全土の綠化にも大きな關心と抱負をもつてゐたものであることを。おそらく青島や驛の綠化は彼等の計畫のほんの序の口であつたであらうことを。想へば獨逸の山東に於ける綠化工作は、吾々に偉大なる教訓と示唆を殘してくれた。

博士の言はるゝ如く「山林が荒廢し盡しては、もはや如何に他の農工商を奬勵するも、到底その目的を達することは出來ない。折角開けたる田畑も、水源の涸渇、洪水の暴威により再び不毛の地となり、農業は衰退し土地の產物に依存する工商の事業も、亦漸次衰微に向ひ遂に國運傾くに到る」と。

げに北支の災害は、山ありて樹無き國土なるが故であり、北支農村の百般のなげきは又この一事に胚胎する。今や興亞北支の經綸は、吾々日本人の双肩にかゝるを思ふ時、吾々は獨逸のとり來りし遠大なる綠化計畫に習ひ、吾吾日本人の力もて北支の山相を改め、太古の欝蒼たる森林の息吹をよみがへらせ、以つて綠の豐かなる國土の建設に協力すべきではあるまいか。

（今日北支在住の日本人で北支の綠化に關心をもたないものはない。頃日古き書物を繙きて本多博士の講話を讀み、大いに感ずる所あり草してこの一文となる。敢へて讀者の一讀を乞ふ所以である）

筆者は華北交通・資業局調査役

可園雜記

加藤新吉

故國の土を踏んで嬉しくてたまらぬことは野も山も埋め盡す綠を見ることである。滿支生活二十年、歸國の都度この喜を感ずるのであるが、今度は時方に七月、九州から東京まで私は汽車の窓にしがみついて心ゆくまでわが日本の綠を樂しんだ。

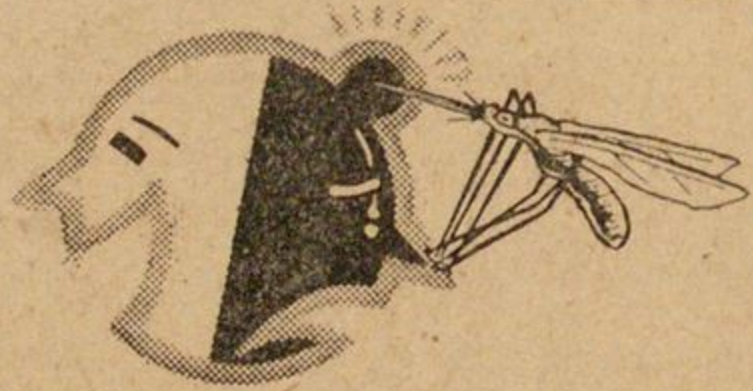
綠の美しさは英國に在ると云つた人があつた。天氣が惡く日射時間が短かい爲に新綠がいつまでも黄色を帶びて柔く陽に透いて見えることを指したものであらう。私もそれを美しいと思つた一人であるが、やはり日本の綠の方が佳い。草木の種類も多く、地形の變化も多く、色調がずつと複雜微妙なのである。日本人はもつともつと日本の綠をほめ讃へてよいと考へる。

北支の禿山、大陸特有の豪雨、耕地の加速度の荒廢、といふ關係をクレッシーが書いて居る。彼の本を讀んだ人は足北支を踏まずとも木のない國の悲哀を想像することができるであらう。若し日本が眞に東亞民族の指導者としてその惠澤を大陸に頒つつもりならば北支を綠化する決意、黄河をして清ましむる信念を要するであらう。勿論それは容易に言ふべくして實行至難の大業である。が、皇道の宣布とか新秩序の確立とか抽象的理論を上下する暇があるなら、まづ一本の樹を植ゑることである。默々として樹を植ゑること百年ならば、それだけでも東亞の歴史は一變するであらう。

不愉快と言つては申譯ないが、東京到るところ、米がまづい、スフには困る、商賣が立たぬとこぼされるには全く不愉快になつた。昨日も自動車に乘つたら運轉手が話しかけて來て大いに不平不滿を並べ立てた。私は「自分は北支から來た者、軍人ではないが、向に居る我々の仲間は事變の渦中に隨分ひどい生活をしてゐても君等ほどにこぼしてはゐない」と云つて彼を默らせた。

尤も、彼は專ら今日の政治の貧困、爲政者の無能を罵倒したので、單なる愚痴としてばかり聞捨にし難いものがあつた。今日程國民が直接に政治を感じてゐることも珍らしいのである。仍て宿に歸つて風呂に涵りながらいろいろ考へてゐる間に、はからず、二十年も忘れてゐた言葉を思ひ出した。私達は小學生の頃「彼は學業成績がよい」といふことを「彼はよくおぼえる」といつたものだ。どうしてこの言葉を久しく忘れてゐたか、またどうして急に思ひ出したか判らないが、私はとたんに彼の云つた貧困無能の原因を衝きとめた氣がした。

明治大正の學校に育つた私達は、地理の試驗に地圖を、歴史の試驗に年表を、法律の試驗に六法全書を携帶することを許されなかつた。地圖も年代も條文もすべては暗記すべきものとされた。その上に無暗に外國語でいぢめられた。私達の青少年時代の精力は殆其爲に消耗し盡された。本を出して見さへすれば判るやうなことにどうして苦しまねばならなかつたのか判らない。

さういふ私達の仲間のうちの秀才、試驗の優者、記憶力の選手が今日の日本を指導してゐるのである。決斷力、洞察力、創造力、といつたものに就いては曾て試驗されたことのない人々が記憶にもなければ書物にも書いてない新世紀の新事態を指導してゐるのである。樹を植ゑるより先に人を育てねばならぬと思つたことである。(七月廿九日、東京にて)

支那武術由來記

武田熙

（一）

『王薌齋なるものあり、自ら大成拳の鼻祖宗師と稱し他の門流を藐視すること甚しきを以て我等一同公衆の面前に於て勝負を決し度きにつき審判の役を御承引願上度候』——と云ふ手紙が數日前私宛に送達されて來た。差出人は「北京武術家一同」とあつた。

支那には庶民相手の小型新聞が存在してゐる。所謂小報と呼ばれるものであるが、この小報のうちで北京で最も賣行のいゝ實報と新北京とに王薌齋なる仁の人を喰つた談話が數日間掲載された。それは六月の半頃であつた。そこで武術界には一時に、夏蟬の如くかまびすしい聲が湧き立つた。その結果が上記の手紙となつた次第であらう。

さうだ——かうした事件は屢々あるそのうち私がまだ忘れ得ない大きな事件が二つ三つある。その中の一つ——丁度私が北京大學に在學してゐた頃、北京の中央公園にある行健會と呼ばれる武術倶樂部に某日一人の青年が訪れた。そして慇懃低聲、師範役へ向つて「一本御指南を」と申込んだ。これが武術界に暴風を捲き起す事となつたのである。說に曰く、其青年の父は以前行健會師範役であつたと云ふ。過ぐる年他流試合を申込まれこれに應じたのであるが相手の暗器（隱し道具）のため遂に倒された。そして自己の不覺と相手の不信とを憤りつゝ果敢なく死んで行つた。これを見た遺されたる兒と其母は「敵討ち」の念が火と燃えたが何分にもか弱い母子では如何とも仕方がなかつた。そこで、定石通り武者修業の旅へ立つこととなつた。春風秋雨廿年、歲月は瞬くまに過ぎた。もうすつかり自信を獲得した遺兒は愈々其目的を達すべく、勇んで各處に敵を搜しつつ北京に乘込んだ。不俱戴天の而かも今では父の地位の簒奪者となつてゐる敵を直ちに發見した。そこで、行健會師範にかくは試合を挑んだのであつた。だから、立上がるや否や青年には「目眦盡く裂け」と云つた程に、もうすつかり殺氣が充滿してゐた。無理はないと、見る間もあらばこそ忽ちにして相手を二三間も彼方に投げつけてゐた。青年は容を正して嚴然、天日を指して宣言した「亡父の遺恨を今日こそ晴らしたり矣」と。さあ問題だ。「初心を裝うて仇討ち呼ばはりとは不屆至極！」と、蓋し敗者にも三分の理だ。そしてこの問題を大衆討議に付し自己へ同情を集めようと策した。すると未亡人たる青年の母が群集を押分けて出で來り「惡人にも似合はず何たる卑怯な振舞よな。いざさらば妾が相手となり申さん」とやり出した。で、爭ひは愈々油を注いで、汪然たるものとなつて行つた。我々は手に汗を握り、片唾を呑んで凝視した——が、終に知らせによつて馳つけて來た時の北京市長の仲裁によつて、兎に角この場は落着したのであつた。

（二）

支那武術は現在ではこれを『國術』と稱することになつてゐる。一體支那武術は何時の頃からあつたのであらうか。詩經の小雅に「無拳無勇、職爲亂階」とあり、また、春秋の僖公廿八年に「晉侯夢與楚子搏」とある。

相當太古より存在したらしいことが想像される。支那人は何事に限らず古いこととそして自國のものと云ふことに誇りを感ずるのであるが、武術に於てもその通りで、彼等の說に據ると武術は黃帝の創案に係るもので、蚩尤と戰つた時には武術に長けてゐたが故に黃帝軍が勝利を得たのだと傳ふ。然し兵器は或は然らん、拳法はさて如何？恐らくは今日の如き形を整へたのは正しく後漢以後にあらう。しかも流派を稱するに至つたのは六朝頃より始つたものであらう。以下現代の武術について述べてみよう。

國術——

國術とは我民族固有の技能で一代一代と相傳し來りしところの一種の武藝の意味に外ならない。若し學術兩科について論ずるならば一國には一國の文學卽國學があると同樣に、一國には一國の武術卽國術があるべきである。かうした觀點より民國十六年以來我等は國術の名稱を訂定したのである。（中央國術館周刊第一〇八期）

我等はこゝで注意しなければならないのは、かくの如くして「國術」を提唱しつゝあつても其實支那武術は從來の「武術」と云ふ觀念よりは少し違つたものとなつてきたことである。國術指導者たちは一齊に次のやうに云つてゐる——

（一）國術は手眼身步を鍛錬の本體

となすを以て百肢百體は協同の動作となる。從つて、一肢體に偏すと云ふ病弊なし

（二）國術は生理學に適合したるものなるを以て神氣の增進と血脈の調和を來す。從て百利ありて一害なし

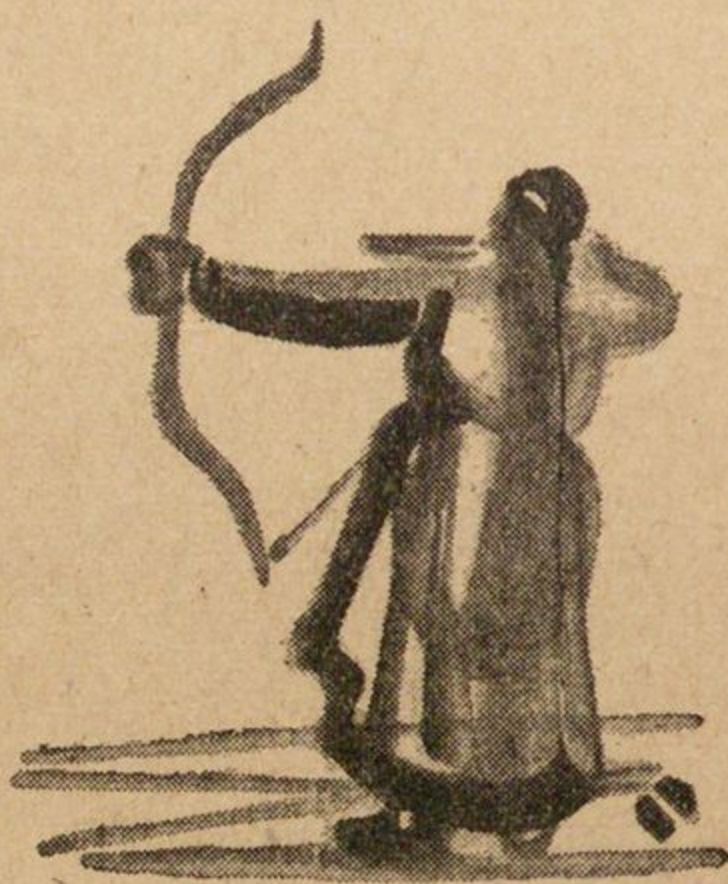
（三）國術は經濟的束縛を受くることなきを以て貧富を問はず老幼男女を分たずしかも相手と場所を擇ぶことなく練習し得

（四）國術は體用兼備なるを以て强身强種たり得しかも白兵格鬪の用に亦役立つ

（五）國術は一種の優美なる鍛鍊なるを以て能く精深なるを得ば風虎雲龍の變化自在にして體育上興味と美感とを增加す

此くの如くして彼等は武術と云ふよりは主として體育としてのものに價値と重點とを置いたのである。否、體育化に努力しだしたのだと云ふべきであらう。そして他面に於ては斯うした機運を釀成させることによつて武術家の所謂「門戶の見」を淸算せしむると共に雲霞の如く數多き諸流派を集大成し茲に新たなる形を造成しよう、云はゞ武術の統一運動を促進しようと志したのであつた。

ところが、第一にこの體育化提唱に絕對反對の烽火が擧つた。また、反統一運動が洪水の如き勢をもつて蔓延しだした。かゝる混沌たる間に支那事變は勃發したのである。

だが、我等が銘記すべきは此等諸說を貫いて其底を流れつゝあつた理念は唯だ一つであつたと云ふことである。基本的理念は次の如くに思はれた――

「强國は强種より、そして强種は强身より！」だ。支那の缺點は科學文明に起ち遲れてゐる事であるが、それにもまして其缺點は〝東亞病夫〟と綽號さるゝ程に國民の體格が弱いことにある。孫中山は我等に遺言された、和平、奮鬪、救中國！と。我等は何がために奮鬪しなければならぬか？ それは和平のためだ。如何にせば和平が得らるゝか？ それは奮鬪によるのみだ。然らば我等は何に憑つて奮鬪するのか。それは國術を研鍊するより以外に途はない」

（三）

私は或る信念に基づいて事變後支那の各級學校に「國術」を正科として課することにしたのであるが其時流派の系統を正したのであつた。

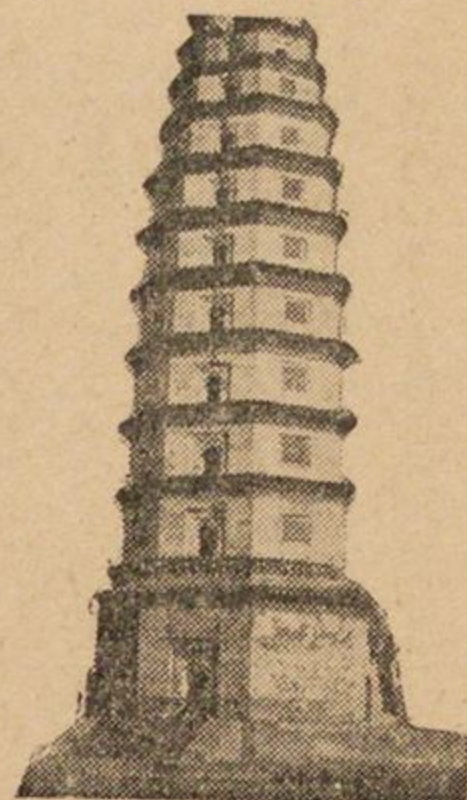
種々さまざまな流派があり盛觀であるが凡そ二つに大別さるゝ。硬工夫と軟工夫と。即ち外功と內功とに分かたれるのである。外功とは、或は外家とも呼ばるゝ俗稱硬工夫のことで、これは「外筋肉を鍊り內丹田を修す、其極に至るや動よりして靜を生じ亦剛亦柔」を主張するが、端的には剛を主とし「人を搏つ」ことが尙ばれる。これに反し內功とは或は內家とも呼ばれ俗稱では軟工夫として通るもので、「內丹田を鍊り外拳式を演ず、其極に至るや靜よりして動に化し亦柔亦剛」を說くも、要は柔を主とし敵を禦ぐことを以て能とされる。

かゝる外家の始祖は達磨であり、そして、內家の太宗は張三丰と云はる。而かも不思議にも此等二人は揃ひも揃つて宗教界の人々である。達磨は六朝の佛敎僧で禪宗開山第一の人であり、其遺址は今日なほ河南省嵩山の少林寺に歴然として存し、張三丰は明代道教の道士で自然派の祖師として有名であり、湖北省武當山の道觀がその住址であつた。かうした因緣で一を少林寺派と云ひ、一を武當山派と云ふこともある。

若し夫れ此等を日本內地に於けるものに比較し得るものを求むるならば、最近有名になりつゝある植芝守高先生率ゆる所の皇武會と武當山派とは相通のものであり、富名腰義珍先生統ぶる所の空手道と少林寺派とは相近のものにはあらざるかと想像される。

さて私はこれより兩家の武術としての技について述べなければならないであらう。或は彼等が裂帛の氣合諸共拳手で自然石を叩き壞したり、或は掛聲と共に家屋の上に飛上つたりすることなども詳しく記すべきであらう。然して更に武術とは「兩々相交ふる瞬間に生死を決する」ものにして「相手を倒すか已れ死すか、唯一擊の眞髓！」こそ父祖傳來の敎なりと誇る絕對の極意を紙上に躍動せしむべきであらう。だが、與へられた紙數は已に盡きた。願くば拙著「通背拳法」（北京琉璃廠北京商務印書館發行）に就いて必要なる結論を得られんことを。

筆者は興亞院華北連絡部調査官

開元寺塔・碧空にそびえる白堊の塔のすがすがしさ、それは朝のうす日、夕のうす日のうちにおいても實にうつくしくみえる。のきばをつないだ弧線のはりやまどのつくりにも北宋時代の神經がみなぎつてゐるやうにおもへる。

開元寺塔と興國寺

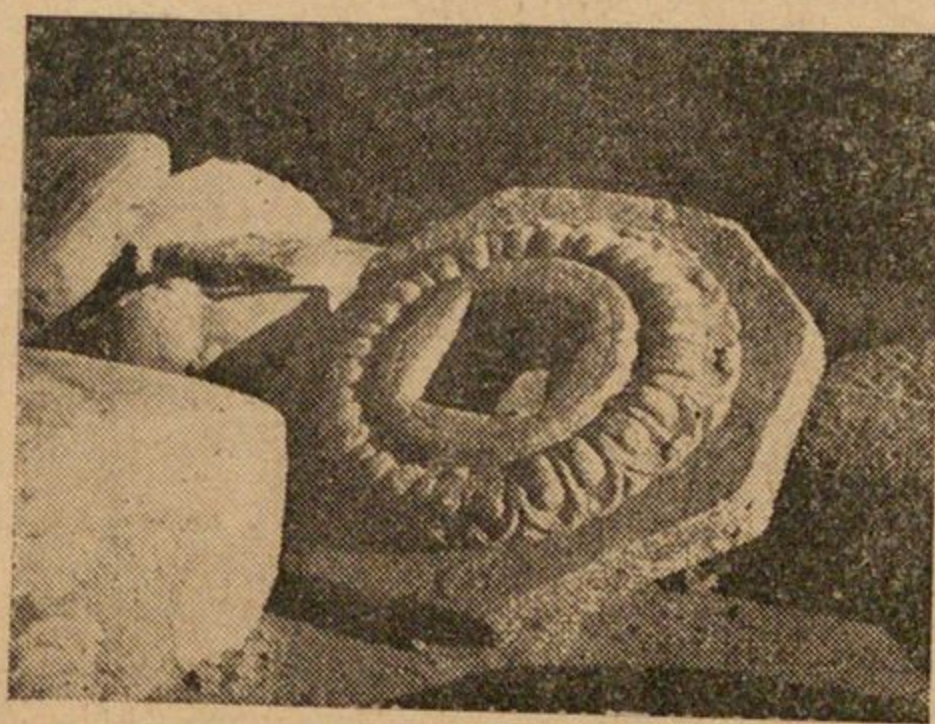
—定縣—

水野清一

十月二十六日夜八時の列車で北京をでる。車內は超滿員だ。それに手荷物などもやたら多いので身動きもできない。北京をでる時の雜沓をおもひおこしながら、うつらうつらとする。定州で降りようか石家莊までつゞけようかとまだまよつてゐる。ひとり旅の氣樂さ氣まゝさ、豫定といふ豫定を排除して、まつたくふらふら旅行である。

朝四時十三分、定州につく。目がさめてゐたまゝに、そこで降りたが、さすがにまだまつくらである。どこへゆくといふあてもなく、紹介狀の一枚ももつてゐない。勝手のわからぬ驛を人について出ると、支那人がならんでゐる。であひがしらの支那人を案內として宿をとる。どんなところかわからないが、ちかいといふから安心してついてゆく。なるほどちかい、驛のすぐそばである。それだけに徹底したひどい宿だ。入口をはいるとき、ひとりたびでちよつと不安になつたが、何とか公司の取次店とかいてあるので多少氣をとりなほしてとびこむ。はいつてみると二部屋あるが、二部屋ともまつくらのなかで、列車まちの客が二三人づゝねそべつてゐるのが、ランプでてらしだされる。これではと辟易して文句をいふと、こゝがいゝといつてさししめしたのは、はいつた土間のテーブルである。晝間の食卓であり、勘定場であるのだ。北京からでたてだ、こんなところにねられるかい、とつい口がすべる。番頭は平氣な顏で、ちよつと待つてくれといふ。待つ間に、うちのものを一部屋におしつめて、一部屋算段をしてくれたらしい。せまい庭にでゝその部屋にはいると、かなしいことには雨戶がない。それでもひとり部屋をとつた勢に、さつそくシユラーフサツクをだして、そのなかにもぐりこむ。おかげで朝がた少々さむかつた。

開元寺礎石・宋元時代の豪華をかたる蓮華の礎石や石獅子がころがつてゐる。北支の文化保存はまづかういふところからといひたい。

さむくて、すこしもぐ〳〵してゐると、またこの部屋へもあひ客をつれこんできた、一言のあいさつもなく、平氣でゐる。これが列車をまつ驛前やどの仁義らしい。

八時ごろ起きてたが、舊時間でいふ七時である。早くて食べものもないので、そのまゝ、洋車をやとつて城內にむかふ。城內まで三十錢といふ。朝霧がふかくこめてゐるなかを西關にはいり、かなり走つてから西門に入るが、まだしばらく畑がつゞく。家なみがあらはれると、それを右に折れ、こゝに郵便局、領事館警察などがあり、日本人の飲食店が二三ある。それをすぎて東に折れると、定州でもつともにぎやかな大通りである。これを南に折れると、突如として、たづねてきた開元寺の塼塔があらはれた。

前に、ひろびろとした廣場をひかへて、十一層八角の塼塔がそびえてゐる。さはやかな朝の空氣のなかに、しづかにういてゐる恰好はなんともいへずすがすがしい。塼塔特有のちよつとでた各層のやねが、一級ごとに遞減し、そののきをつないだ線がわづかに弧線をなし、七層目あたりで一番はつてゐるのは、なかなかしつかりして、うつくしい。塼塔に多い塔身省略をせず、各層ごとに東西南北の四面にアーチの出入口をまうけ、その中間の四面にくみこの窓をまうけ、そのそとをめぐることができるやうになつてゐる。いま東北角はくづれ西南面に建設東亞新秩序の文字があざやかにかいてある。塔をのぼつていくと、廊下天井に塼の彫刻があつてみごとだといふことを、あとになつてきいた。そとからみても、窓の塼にあるくみこの彫刻はうつくしいし、出入口うへのアーチは實にするどい。

初層內部に大德元年の元碑と雍正七年の淸碑とがあつて、それによるとこの塼塔は北宋の眞宗咸平四年（西曆一

〇一）よりはじめて、仁宗至和二年（一〇五五）に至つてできあがつた。すべて五十四年、それを三百年ほどたつた元の大德元年（一二九七）に重修したのだといふ。元碑の標題には、中山府大開元寺といふから、唐の開元寺の故地とみられるが、北魏の豐樂寺、七帝寺もこのあたりにあつたものらしい。

いま塔のほかには何もない、たゞ往時の伽藍をしのばせる廣場と、北宋の作とおもはれる蓮華臺座や石造獅子などがころがつてゐるのみである。

こゝをでて城の東北隅へいくと、畑のなかに一庵がある。興國寺といふ。佛殿一所は方三間、うちに三體の尊像と三大士の像がある。殿前にあるのは乾隆三十年（西暦一七六五）の寺碑、殿後にあるのは嘉靖二十一年（一五四二）の重修殿碑である。また殿後には二基の小塼塔がある。丈の高いラマ塔形で、東塔は「成化乙未（西暦一四七五）興國寺第一代開山住持隱山喜公和尙建立之塔」とあるからこの寺の開基が明初の成化年間にあることをものがたつてゐるが、この塔そのものはどういふ目的のために建てられたかはつきりせぬ。西塔には成化十六年（一四八〇）信者の李福傑夫妻が僧にたのんで金剛經と觀音經とを讀誦せしめ、この寶塔一座を建立したといつてゐるが、甃頭、十方三世諸佛と多寶如來に献ずといつてゐるから、いはゞ多寶塔であるる。くみこを彫刻した塼や、頂上の寶珠がよくできてゐる。

まだ境内には萬曆元年（一五七三）の鐵鐘があり、殿前にはこはれてゐるが金の大定十八年（一一七八）にできた佛頂尊勝陀羅尼幢がある。國師法初俗姓は李氏、望都の人、幼年より出家し、八十三歳に至り疾もなく死んだので茶毗に附し、供養のためにこの經幢をたてるといつてゐる。またそのをはりに曲陽縣匠人張完、黃聖、王宗が字をきざんだといふ。この種の白大理石は、定縣の西北曲陽附近に產地があつて、北魏以來さかんに利用されたが、その石工も自然その方面の人が多かつたものとみえる。

門外にでると少々空腹をおぼえたがなほ西北に華塔寺址と石佛寺がみえるのでそのまゝ車をはしらせた。いゝ秋の日和だ。からりと照つて、それでゐて少しも熱くない。車夫には車にゆられながら、一日分の日當を交涉する。畑には作物はなく、土器のかけらや陶磁器のかけらをさがすにはかつかうの時節である。しかもこのところ至るところに漢六朝の塼および土器片がおちてをり、また唐代とおぼえる陶器の破片さへちつてゐるのだ。

筆者は東方文化研究所員

訂　正

「北支」七月號グラフ中「古柏」英文譯につき北京大學副教授貴島恒夫氏より左記の通り御注意を受けました。氏に謝意を表すると共に謹んで訂正致します。

（編輯部）

記

「北支」七月號中、「古柏」ノ頁ノ英語解說ニ於テ

「柏」ヲ "oak tree" ト爲シテ居ラレマスガ北支ニ於テ「柏（パイ）」ト言ヘバ大體

1 Juniperus chinensis L. 圓柏或ハ檜（和名イブキ）

2 Juniperus rigida S. et Z. 杜松（ネズ）

3 Thuja orientalis L. 側柏或ハ扁柏（コノテガシハ）

ノ三種ヲ指スト考ヘテヨロシク、之等ハ孰レモ針葉樹 Cupressaceae 柏科（和名扁柏（ヒノキ）科）ニ屬シテヰマス。

私ハ未ダ中南海公園中ノ寫眞ノ箇所ヲ實見シテ居リマセンガアノ寫眞ノ感ジデハ多分（一）ノ種類ダト思ヒマスカラ英譯ハ chinese Juniper 或ハ Juniper ガ適當ト存ジマス。

日本デハ「柏」ヲカシハト讀ンデ Quercus dendata Thunb（和名カシハ）（中國名槲樹）ニ當テテ居リマスガ、濶葉樹 Quercus ハ日本デハ俗ニナラ、カシ、ハノ屬ト申シマスガ中國デハ櫟屬或ハ麻櫟屬ト稱シ柏屬トハ申シマセン。oak tree トハ卽チコノ Quercus 屬ノ樹種ノ通稱デス。

以上

北支の風土病

村上　三槐

「支那は疾病の處女地なり」と言ふ言葉があるが、醫學研究者にとつては支那は又「一つの殘されたる寶庫」でもあらう。北支の風土病に就ても未開の分野に吾々の對策研究の鍬を下さねばならないことの餘りにも多いのに驚愕するの外はない。

何も今更ら驚愕してゐるわけでは無いが、北支には甲狀腺腫やカラ・アザールやペストのやうな北支特有の地方病があるし、また他の地方にもあつて必ずしも北支特有とは謂ひ難いが、北支に於て常に絶えざる流行を繰り返す赤痢、殊にアメーバ赤痢、マラリア、發疹チフスのやうな前記地方病に准ずる流行病があるし、或は亦近年每夏のやうに北支に發生して一種の風土的存在と見做されるコレラの如き傳染病があり、之等北支特有の地方病、流行病を引つくるめて流行病性地方病若くは風土病と言ふならばこれだけでも各々その全體を摑むことに非常な困難を伴ふものである。

茲に上記疾病の順に從つて其の概貌を記して見ることとする。

一、地方病性甲狀腺腫

本病は萬里の長城線に沿ふ高原地帶に多く、北は滿洲熱河省全域に亙り、南即ち北支側では山海關から唐山及び北京に至る迄をその蔓延地帶と見做されるが、廣大なる分布と稠密なる濃度を有する點で世界にも餘りその類例を見ないのである。

四歲以下には見ない、五、六歲頃から頸部の甲狀腺が肥大して春期發動期に至つて著しく高率となり女子に遙に多い。由來地方民は始め頸の周りが腫れて來る時代を粗脖子(ツーボーツ)或は粗脖根兒(ツーボーガール)と言ひ、漸次肥大して突出したり垂下する樣になると癭瘤(インリュウ)又は癭疸(インタン)と言ひ、別に氣脖(チーボー)とも言ひ、性來怒癖の故に膨出し、其の內容は氣體であるとか、植物よりの毒氣發散によるとか、又は蝦蟇の食用、或は生卵の食用によるとか、色々の眞赤な嘘が傳へられて居る。

本病の發生原因に關しては古來幾多の說あり、即ち地質說、飲料水說、細菌說、傳染說、ヴイタミン缺乏說、榮養不給說、中毒說、遺傳說、人種說、非衛生說、紫外線及放射能說、沃度缺乏說等が之であるが、之等のうち、沃度缺乏說は今日最も廣く認められるところである。蓋し同一流行地でも、使用する飲料水の中に含まれる沃度の多寡によつて多發箇所と非多發箇所とあり、而も沃度を攝ると治療及び豫防に効果があること等が立證せられたりしてゐる。

二、カラ・アザール

本病は支那では揚子江以北、殊に北支に於ては京山線沿線及び山東省に亙り廣く分布し、滿洲の奉山線及び南方大連方面を連ぬる沿岸と相對し遼東灣に面する一帶に於て滿人及び中國人間に地方病的に存在してゐる。

家族的に出現し、大人にもあるが主として乳幼時から七歲未滿の小兒に最も多い。始め、數週間も續く慢性不整熱で始まり、第一期に肝臟が大きくなり、貧血を起し、第二期には脾臟が素晴らしく大きくなり、瘦せて惡疫質となり、第三期の衰弱極期として腹ばかり膨隆して、皮膚が黑くなる。カラ・アザールとは黑病の意である。

病源體はレイシュマニア・ドノバニと呼ばれる原蟲で、感染經路は白蛉(パイリン)、南京蟲、蚤、砂蠅等が媒介するものと疑はれてゐる。死亡率は高いやうであるが、幸にしてアンチモン製劑は本病の特効藥として推奬されてゐる。

三、ペスト

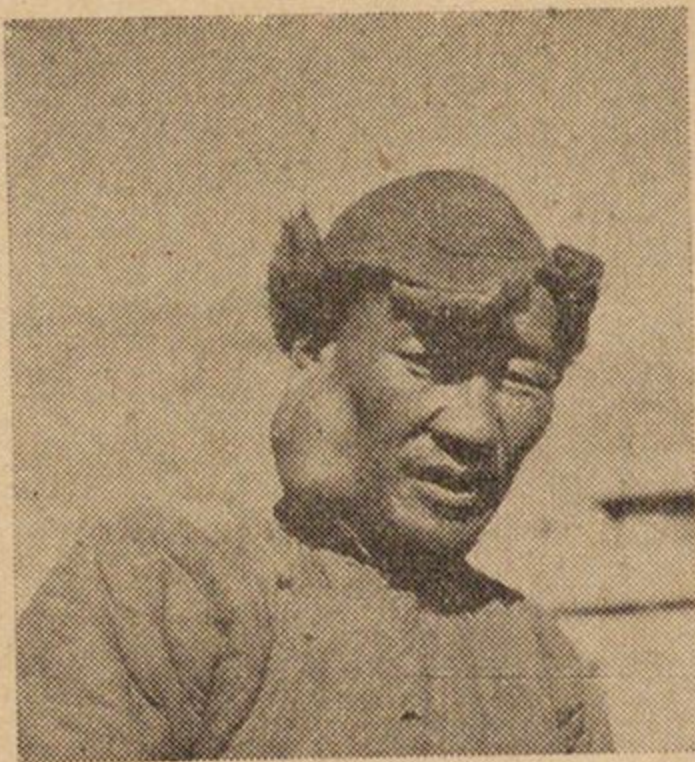
北支はペストの二大病窩に隣接し、いつ何時襲はれるかも知れない地域に在る。即ち其の一つは滿洲國熱河省から京白線に亙るペスト常在地で、山海關及び古北口を連ぬる長城線を境として絶えず危險に曝されてゐる。もう一つは蒙古三病窩の一つとして知られる內蒙古中部から其の南方オルドス地方を連ぬる常在地で、之より陝西省及び山西省の接壤地帶に派生侵襲する途がある。過去に於ても屢々襲はれた經驗があり、將來とも交通の回復に伴ひ其の危險の除去に對する豫防工作が必要であらう。

四、赤痢及びアメーバ赤痢

通常赤痢とはむつかしく言へば細菌性赤痢の謂ひであるが、之も相當見られるけれども殊にアメーバの原蟲によるアメーバ赤痢は全北支に蔓延存在してゐること想像に難くない。罹病狀況から推察するとアメーバ赤痢は細菌性赤痢の三分の一以上に上る。元來中國人は抵抗力が强いのと、罹つて發病しても輕症であるのと、或は亦赤痢の如きは病氣の數に入れて居ないと言つた色々な事情から、實際統計上の罹患數

には多數を算せずとは言ふものの、北支中國人に於ける本病の存在は地方病的であると謂ふも過言ではあるまい。

五、マラリア

古代醫學で既に支那にはマラリアの存在が知られてゐた。現在北支では京漢線、津浦線、膠濟線及び隴海線の各沿線に散發的とは言へ、發生常なく殊に氣溫が零度以下の一月、二月、三月

にも少數乍ら發生を見る。

北支のマラリアは大部分一日置きに發熱する三日熱マラリアであるが、尚四日熱及び熱帶マラリアもある。

六、發疹チフス

北支では本病は何處にも存在し、普通は散發的であるが時に流行を來し死亡率も高くなることは一般に知られて居るが、特異的の發生地帶として擧げられるものに、山西省太原を中心として南部同蒲線に沿ひ運城に至る間、相當廣範圍に亙り風土病的に流行する。

病源體はリケツチアと言ふ一微小體で、尤もリケツチアにも色々の種類があるが、或る種のリケツチアが衣虱を介して人間に感染するのである。通常流行性に來て發熱、腦症、發疹（出血疹）を主なる症狀とし、豫後は餘りよくない。

七、コレラ

コレラは支那に於ける最も激烈な流行病の一つで、過去半世紀に於て支那の重要なる都市は、恐らく、一と雖も其の慘害を免れたものは無からうと思ふ。元來北支はコレラの常在地では無いが地勢上廣汎な地域を占め、海路陸路共にコレラの侵襲を蒙り易い位置に在る。

コレラは由來病源地たる印度から或は南支に、或は中支に流行しつゝあるものが、香港、廣東を經て一と度び上海及びその附近に蔓延猖獗を極めると塘沽、太沽、天津又は青島等に於ける海路に依る侵入、津浦線と京漢線との南部に於ける陸路の侵入と、山海關等の國境に於ける侵入等に依つて、近年殆ど毎常發生流行する。その上、昨今に於ける流行は之等の感染經路不明のまゝ北支各地に蔓延流行するところから見ると、コレラは北支に於ては一種の風土病的存在として嚴重に警戒を要するものである。

八、その他の風土病

前述の外、全貌は判つて居ないが、山東省の癩病、德縣から濟南及び膠濟線にかけての流行性黃疸、又その土地その土地に特有的な特殊不明熱性病等が諸所に見られ報告されて、之等が何れも風土的に存在することが認められるが今後の研究調査に俟つの外は無い。

以上を要するに、北支は疾病の巣窟であるかの觀がある。此の廣大なる地域に跨つて少數の都市を除くと、未だ文化の恩惠及ばず、衞生施設は甚だ乏しく、住民の衞生思想は原始的であつて、種々の風土病なり傳染病なりが脅威を逞しうして年々幾多の民衆がその犧牲となつてゐる狀態である。

出來得べくんば一日も早く之等の疾病の全貌を探り、對處し、頼り無い民衆に温い救ひの手を伸ばし、未開の民をして文化の光に浴せしめることは東洋に盟主たる本邦の醫學に志あるものの義務であり、更に亦、大陸との交通日に日に頻繁となりつゝある今日本邦防疫上の見地からも忽に出來ない問題である。

筆者は華北交通保健科學研究所員

初秋の蟹

黄子明

焙烙の上で炒られるやうな暑さの三伏も過ぎると、朝夕の風の肌ざはりが流石に秋らしくなつて、今までだるみ切つた胃の腑の機能も俄かに元氣を取戻す頃、しきりに食慾を誘惑する北京初秋の美味は、肉の旨みのにじみ出た羊のヂンギスカンもその一つであらうし、まる〳〵と脂肪の乘つた燒鴨子も亦たその一つであらう。が、何にはさておき蟹だ。蟹と聽くと、覺えず猫のやうに喉が鳴る。

實をいへば、蟹のお料理は、何んといつても本場は江南で、また蟹の產出からいつても無論水鄕の江南には遠く及ばないが、しかし、華北でも、天津西南文安縣勝芳鎭の蟹は、江南の產に優るとも劣るものではない。

◇

この文安縣の勝芳鎭は、華北の小蘇杭ともいつていゝやうな河や沼の多い水鄕で、水もよく、北支には罕れにみるいゝ米もとれるし、そして又た美人の產地としても蘇杭に頗る似かよつてゐる。上海花界の尤物の多くが姑蘇美人であるやうに、天津北妓の逸物も是れ亦た勝芳鎭の出身が多い。

◇

稻や高粱がやうやく實り出す初秋、この蟹がその若い實を好んで喰べるといふことを私は屢〻聞いてゐた。けれどもその實際を目擊したことがないので半信半疑であつたが、偶〻この勝芳鎭の土地の知人が來燕したので訊いてみると、どうも噓事ではないらしい。

大概は夜間だが、河や沼から傳つて遠近の水田に群を成して押しよせ、稻に這ひ登る。重いので魚のかゝつた釣竿みたいに稻の莖がしなふと、蟹は八脚を力強く水田の底地にふんばり、片つ方のハサミで稻の穗をしつかり握り片つ方のハサミで稻の若實を摘んでは喰べ、また生棲地から遠くない畑に高粱が實ると、水から上つてその畑に殺到し、高さ丈餘の高粱によぢ登つてその柔らかい實を喰べ、靜かな水鄕田園の夜、そのもの音がなか〳〵凄いものだといふ。

◇

いろ〳〵な蟹料理のうち、いちばん本質的に蟹の味ひを堪能するには、蒸螃蟹──活きた蟹を蒸したもの──に如くはない。

全身まつ紅に蒸しあがつた蟹の甲殼をはぐと、俗にいふミソ（蟹黃）がその裏にいつぱい着いて、それにクリームのやうな脂肪がのつてゐる。それを箸でとつて、薑芽をきざんだ酢醬油につけて喰べる。鷄卵のキミ程の分量もないが、それが千兩、その旨さ……。

ミソを喰べたあとは肉に移るのだがこれはほじり出すのが甚だ面倒、だが是れ亦た忘れ難き美味である。

この蒸螃蟹は、なにもわざ〳〵料理屋まで足を運ばなくとも、蟹さへ買つて來れば、家庭で雜作もなく拵へられる。蒸しあげればそれでいゝ。たゞ冷めないうちに召上ることだ。

二つで一斤といふところの蟹が頃合で、好みにもよるが、ミソに味覺を傾ける方は雌がよく、脂肪の味ひを貪りたい方は雄がいゝ。

ゆでることも一法だが、ミソも脂肪も肉も、すべてが水つぽくなつて味がずんと落ちる。

◇

蒸螃蟹で、より拔きの上蟹を喰はせる店は、此處では、ヂンギスカン料理で名高い前門外の正陽樓を推す。

この店では、蟹の肉をほじくる爲に、孃ちやんのおまんまごとのやうなとても可愛い俎板とサイ槌を客に出す。蟹の脚やハサミなどを、その俎の上にのせ、槌で輕くたゝき割つて其中の肉を取出すのだ。このお道具は、氣も利いてゐて且つまた頗る面白い。

東京の大森から品川埋たてあたりに軒を竝べてゐる所謂東京名物蟹料理はゆで蟹を主とするもので大變な繁昌だが、海蟹だけあつていかにも大味で、啣んでゐたいやうな風味にかけては到底支那の蟹の比ではなく、蟹好きの江戸つ子にこれは是非喰べさせたい。

◇

蟹食は、手數のかゝつたお料理よりも、どつちかといへば、むしろ點心の方にお美味しいものが多い。その點心のうちでも、蟹粉包子といふ蟹饅は、蓋し上乘の逸品であらう。これは料理を以ては全國に冠たる北京でも、實は遠く江南に及ばない。同じ江南でも、南京下游の鎭江の蟹粉包子に至つては實に是れ天下の美味。

今でも依然繼續してやつて居ることと思ふが、上海英租界の二馬路に老半齋といふ鎭江料理屋がある。そこの蟹饅は非常に名高く、一口饅頭といつて

いゝくらゐの小形包子で、皮はまるで紙のやうな薄さ。中に蟹七豚三の割合の肉餡を包んで蒸したもので、そのおいしさといつたら、翼あらば飛んでもゆきたいやうな風味だ。

◇

また話が脱線するが、この蟹饅に就いてこんな笑話がある。私がまだこの蟹饅を知らぬ書生の頃、江南の友人が意地きたない喰ひものゝ雜談から、談たまたまこの蟹饅に及ぶと、『老半齋の蟹粉包子なら、百や百五十ぐらゐはペロリだね』といつて、よだれでも出たのかハンカチで口を拭いたものだ。喰氣一方時代の血氣な駄法螺とばかり思つてゐたところ、私も、初めて老半齋でこれを喰べたとき、餘りの旨さに六十幾つか平らげたことがあつた。

この蟹粉包子は、北京では、東安市場の五芳齋、天津では、フランス租界藍牌電車路の小食堂あたりがいゝ。ただ形がやゝ大きすぎる。

蟹粉燒麥も、蟹饅に次ぐ美味な點心で、花瓣のやうな燒麥のキンチヤクロに蟹の黄ろいミソがのぞいてゐるのは見ただけでも食慾を惹かれる。

◇

蒸螃蟹を喰べ、蟹粉包子や燒麥も味つて、秋も半ば頃になると、今度は醉螃蟹だ、是れ亦た求眞の珍味。

其字の示すが如く、醉ツぱらつて極樂往生を遂げた蟹だ。酒漬けの蟹である。玆にざつと其製法を書いてみる。

一、活きた蟹五斤（約十疋）

二、白乾（上等高粱酒）半斤

三、精鹽三四匙

四、花椒（サンセウの實）

五、大料（廣東産の或る大樹の實、花椒とで五六錢も買へば充分）

先づ御飯茶碗一二杯の熱湯で三四匙の精鹽を溶かして冷ましたのを半斤の白乾に雜ぜ、それを、なるべく口の小さい缸にあけ、更に其中に香料として花椒と大料を入れる。

その缸の中へ、活きた五斤程の蟹を放込んで缸の口を密封し、風通しのいい陽の射さない處に置く。四五日たてばもう出來あがる。至つて簡單。

醉螃蟹を買ふならば、東安市場北口西角の稻香春のやうな南式食料店若くは五芳齋のやうな南方料理屋がいい。

◇

無殘といへばそれまでだが、缸の中では、放込まれた蟹のやつ、强烈な白乾酒をガブ飲みに飲み、醉つてくそのまゝ參ゐツちまふ。醉死蟹とでも名をつけるのが寧ろ本當であらうが、まさか死の字も使へないので醉螃蟹といふ。日本流にいへば酒漬けの蟹だ。

死んだ蟹は絶對に使はない、よし使つても全く物にならない。

さうして三四日たつと、ミソも脂肪も肉も、酒の作用で程よく固まる。

これを缸から取出し、蒸螃蟹と同じやうに先づ甲殼をはぎ、其中の黄色みが酒でやゝ黒ずんだミソを喰べる。それが舌の上にのつたとき、覺えず驚嘆の聲をあげぬ者はないであらう。何といふ美味、何んといふ珍味。

◇

この醉螃蟹は、むろん酒の香りが高いが、酒の佳肴として正に糟鴨蛋と兩横綱、中外上戸黨の隨喜に値する。

糟鴨蛋をウニとするならば、醉螃蟹はコノワタに喩ふべく、しかも、それよりは遙かに風味ゆたかである。

生來酒のいけないくせに、ウニだとかコノワタだとかそんなものを悦ぶ私は、この醉螃蟹で熱い飯をやるのが堪らなく好きで、毎歳秋が訪づれると、醉螃蟹の二缸や三缸はきつと搾へる。

紺碧に澄みきつた大空の爽やかさは世界に類のないといはれる北京の秋に是れ亦た環球罕れな醉螃蟹のやうな佳肴を食膳にのぼせる北京人は、さても幸はせ者よ。

筆者は北京在住中國人・慶大出身

昔懐しの幌馬車古都に流行

晩香玉の花匂ふ北京の街にローマン色豐かな幌馬車時代がやつて來た。時節柄ガソリンの節約はとにかく、涼しい鈴の音が雜沓の街を悠々と走つて行くといふ寸法。この幌馬車はかつてハルビンはじめ華北方面の上流社會の人々が自家用として使用した上等のもので、車體の巾は五尺、ゆつくり三人並んで乘れ、前部に二人分の補助席があるから都合五人乘合となつてをり、ふか〳〵とした黒色なめし革の幌に同じ黒色のボデーは長さ九尺もあるから後方から見れば自動車と見ちがへるほどの大きさである。料金は一日貸切（御者、役夫、馬料つき）十圓、一ヶ月貸切二百四十圓（同上）となつてゐる。

塘沽碼頭擴充

華北交通會社では昨年六月塘沽、塘沽北砲臺、天津特三區の各碼頭及び同十二月連雲港の碼頭開始以來、以上の各碼頭が北支における門戸港として大陸開發に占むる重要性にかんがみ鋭意擴充强化につとめてゐたが、このほど塘沽碼頭の棧橋と倉庫の新設が完成し八月一日から貨物取扱を開始することになつた。新設棧橋は六ケ所でうち四ケ所が貨物、二ケ所が旅客用に充てられ、貨物棧橋の背後に二棟合計七千五百平方メートルの倉庫が新設された。同碼頭は從來主として旅客を取扱ひ貨物は一部特定のものに限られてゐたが、今回の擴張を機に取扱範圍を全般に及ぼし稅關吏も常駐することになつたので、一般荷主の受ける便益は多大なものがあらうし、石炭をはじめ諸物資の對日輸出も漸次旺盛に向ふものと見られてゐる。

豪華誇る北京飯店日本人の手に

北京でもつとも高い展望臺であり、第一級のホテルとして紫禁城に近い東長安街に聳えてゐる北京大飯店（グランドホテル・ド・ペキン）はフランス資本のもとに經營されて以來二十年の歷史を誇つてゐたが、去る七月十日から日本人の經營に移つた。三色旗に代つて日の丸の國旗が六階の屋上高く飜へり、こゝにも時代の波が高くうねりあがる姿がみえる北京飯店は、もともとフランス人の個人經營であつたものを一九一五年フランス工商銀行が買收、フランス資本代表ラフアエル氏以下四名、中國側前華北政務委員長王克敏氏ら五名が重役となつて二十五萬元の株式組織とし、一九一七年四十萬元に增資、更に翌一九一八年に七十萬元に增資して現在に及び、その資本の三分の二をフランス側で占めてゐたものである。同ホテルは治外法權ホテルとして北京を中心とする多彩な政治裏面史を祕めてをり、かつて北京で各國外交團を手玉にとつて暗躍したソ聯のカラハンがこゝに泊つて五千元の借金をふみ倒しかけ、張作霖が追拂ひ策を講じたなど、數々のエピソードに彩られてゐる。營業狀況は事變前までは槪して不振を續け、事變後非常な好調となつたものである。

山海關に國境檢疫所を開設

華北交通では七月二十日より華北政務委員會の委任を受け山海關に國境檢疫所を設置、鐵道によつて傳播されるコレラ、ペスト、チフス、天然痘等流行病の防疫に乘出した。滿洲國と華北政務委員會には本年三月防疫に關する協定が結ばれ、流行病の撲滅に協力邁進してゐるが、從來山海關には華北側の防疫機關なく、遺憾とされてゐたものである。

「大地」宛らの蝗群!!

古來支那では水禍のあつた翌年必ず蝗害があると云ひ傳へられてゐるので、北支の農民達は昨年の水害の後を受け、蝗の襲來を警戒してゐたが、遂に河北省の保定附近にその大群が襲來、淸苑、高陽、安新縣附近の大空を眞黑に掩ひ、農作物を喰ひ荒しつゝ北上してゐると云ふ。また一方天津、山海關の寧河縣海岸の如きは足の踏み場もないほどで、例のパアル・バツクの作品中にも見られるごとく、慘憺たる場面を現出してゐる。

水路愛護村へ寶を乘せた慰安船

逞しき建設の息吹きのもと華北の產業經濟文化開發の先驅として、逐月躍進の一途を辿る大陸の動脈華北の交通網を護る愛路工作は、著々その成果を收めつゝあるが、華北交通の所管に入つた水運路線も、昨年營業開始以來逐次伸長して現在三千二百キロに達し、之が安全確保を圖るために陸の鐵路を護ると同樣に、愛護村組織の擴充整備の必要が一段と增してきた。華北交通愛路課では民路合作の目的達成上、近くこれら水運路線を圍む沿線愛護村民の協力を要望すると共に、他方村民の福祉增進と諸般の指導を積極的に行ふべく、目下着々計畫を練つてゐる。特に陸路愛護村民に先般來白熱的賞讃を博してゐる厚生列車の運行にも等しい慰安船を、伸びる

水上路線に浮べ、水上愛護村民に嬉しい贈物をしようと計畫されてゐる。この慰安船には厚生列車同樣、船内にさまぐの優れた實物見本を展示し、村民に指標を與へると共に醫療、映畫、廉賣の各班をも同乘させて村民の利用に供しようとするもので、これが實現は大いに期待されてゐる。

北京鴨子を新民會で飼育奬勵

北京鴨子（家鴨）の名は全支に高く好食家の味覺をそそつてゐるが、最近その飼育數が甚だ減少し、高値を呼んでゐるので、新民會勸農科では北京の近郊農村に家鴨の飼育を奬勵し、北京の邦人の臺所にも安くて美味しい肉を豐富に供給しようと云ふ計畫が進められてゐる。

家鴨の飼育は粗末な飼料で十分間に合ひ、ことに沼澤や河川の多い地方では無飼料でも放し飼ひで結構育つので優良種の家鴨五百羽を購入、まづ篤農地に飼育せしめ、明春は一萬羽ぐらゐ一度に孵化できる孵化器を設けて大量の雛を農村に送る計畫である。また家鴨の特點は三・四ヶ月の短期間で成育し、四季を通じて味が變らないこと、羽毛は彈力性に富んでゐるため、羽布團をつくるのに一番適してゐるといはれてゐる。

窮乏愛護村に食糧原價配給

最近における物價高と食糧飢饉に對處して華北交通會社では愛路工作の立場から、窮乏地區の鐵道愛護村民に對し、大々的に食糧救濟の手を差し伸べつゝある。北支の各地は最近患災相次いで起り、その農作物に與へた被害は甚大で特に昨夏天津一帶を襲つた水禍のため農村の疲弊は深刻なものがある。この實狀に鑑み同社では特にその恐慌の極にある天津鐵路局管内の愛護村民約三十萬人に對し民食を確保させるため食糧を原價で提供、刻下の難を救ふことになつたものである。配給されてゐる食糧は包米粉二千二百四十トン、高粱、米糠九百六十トンで、同社において滿洲國から輸入、京山線の二十三愛護區および津浦線の十九愛護區に亘り配給されてゐる。

ペロリ九千頭 北京市民の食慾

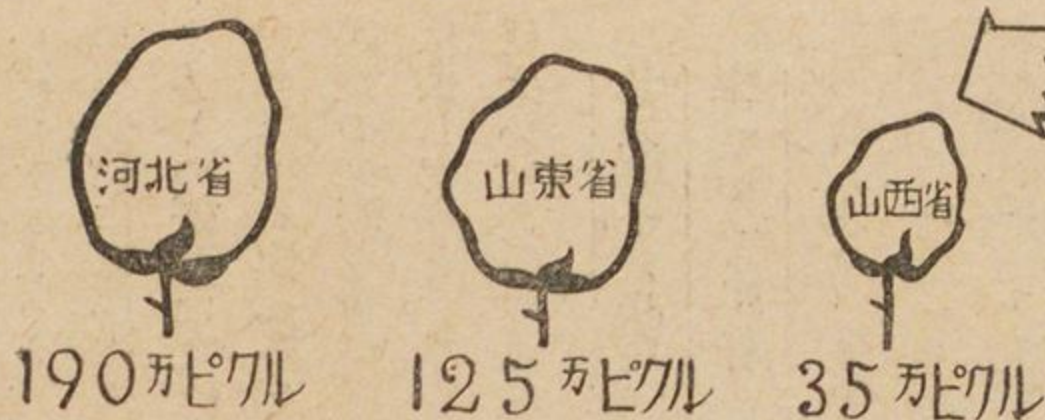
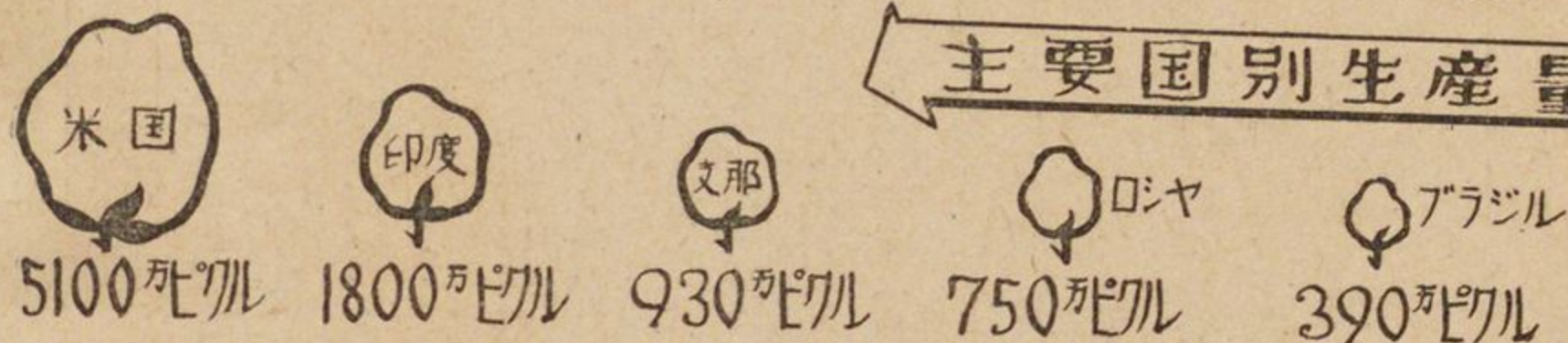
北京市屠殺場七月上旬十日間の統計から市民の食慾を覗いてみると、筆頭は豚の五二三九頭次いで羊の三三四〇頭、牛の二二二頭驢馬の五頭、駱駝の一頭といふ順でザット八八〇七頭、これを前旬に比べると暑さの爲か七二一頭の減少となつてゐるが、依然旺盛な食慾振りである。

京包線の强化工事完成

昨夏の大水害に蒙疆の動脈京包線が多大の被害を受け列車不通となり、軍鐵一致の筆舌につくしがたい苦心と努力の結果、世界に誇る神速さで復舊工事が完成されたが其後更に北支、蒙疆の全鐵道、自動車水運路を再び水害の災禍から救ふべく各線に亘つて鋭意補强工事が進められこのほど京包線の强化が完成、七月十五日から改修された新線による運轉が開始されたのである。今回の工事は南口站を中心として行はれたもので、昨年九月以來隧道四ヶ所、橋梁七ヶ所、ダム二ヶ所がそれぞれ新設され、延長六キロに及ぶ線路の移轉または路盤上げが行はれたものである。特に同工事には覺醒せる沿線愛護村百七十萬村民が「我等の鐵路は我等の手で」「一民愛路萬民享福」の旗印を掲げて連日工事に挺身勞力奉仕したことは特筆に値することで、一面華北交通は農村の過剩勞働力をこの建設方面に活用した點でも極めて有意義とされ、かくして水害防止に完璧が期されたわけである。

傳書鳩 九

棉花

北支・蒙疆の統計 2

綿糸紡織は本邦重要工業の首位にあるもので、一ケ年間の綿糸布製造高は已に十數億圓に上り、最近まで紡織界に覇を唱へてゐた英國を凌いで世界第一位にある。然し遺憾なことにはその原料たる棉花のすべてが海外からの輸入によるもので、我國にはその産出が全然ない。更に中國、滿洲について見ても人口五億の八〇%以上が農民で衣服の全てが綿製品である。

この様に棉花に關する問題は日本及び中國の國民生活から考へても、國際貿易上から見ても極めて重要であり、棉花資源の獲得は一刻もゆるがせに出來ない。しかし、事變後國際間における日本のデリケートな立場と貿易收支の問題を考へるとき、棉花輸入についても一沫の不安を感ぜざるを得ないのである。朝鮮、滿洲、北支を含めた日本の勢力圏内における自給對策が、懸命に研究されてゐる所以である。しかし、朝鮮と滿洲には棉花增産二十ケ年計畫といふ遠大な理想を揭げられてゐるが豫定通りの生産が實現してもこれによつて鮮滿から供給し得る棉花はわが國需要量の一割見當に過ぎぬといふ。いきほひ日本が期待し得る處は、北支を措いて他にはないといふことになる。

支那の棉花の起源はまことに遠く、支那へ佛教が渡來した頃、印度からもたらされたものといはれてゐる。棉花はすこぶる耐旱性に富み、また北支にあるアルカリ土壤地に適してゐるので以來急激に發展した。

現在北支三省（山西・河北・山東）における棉花の作付面積は全支棉花作付面積の三〇・二%、その生産額は全支生産額の三六%で、三百五十萬ピクル（一ピクルは約百斤）を產し、支那全省では九百三十萬ピクル、米國、印度に次いで世界第三位になつてゐる。たゞ北支の棉花はまだ粗毛品が大部分を占めてゐること、食料作物との均衡の問題、單位面積からの增收策など研究改良さるべき問題が多く、華北交通の通州農事試驗場が中心となつて鋭意その科學的研究を行つてゐる。北支棉花の主産地は黄河の流域で華北交通會社經營の南運河や子牙河を利用して、幾日もかかつて鐵道沿線へ運ばれて來るのである。

昭和十五年八月十五日印刷納本
昭和十五年九月一日發行

九月號
（毎月一回一日發行）

編輯者 北京・華北交通株式會社 資業局資料課 加藤新吉
發行者 東京市麴町區三番町一 長谷川巳之吉
印刷者 小石川區久堅町一〇八 共同印刷株式會社 大橋松雄
發行所 東京市麴町區三番町一 第一書房 振替東京六四二二三番 電話九段(33)一四一五番 三三四四番

一冊定價 ㊅三十錢（郵送料一錢五厘）
一ケ年分 金三圓六十錢

廣告取扱
大阪市西區京町堀上通一丁目二五
一手取扱所 一新社 電話土佐堀九三一九

NISSEN

痒い皮膚病に

ムナバールは化學的に合成したる有機硫黃化合體ヂメチル・ヂフエニーレン・ヂスルフイドにして皮内に滲透して强力なる殺虫作用を發揮し、同時に優秀なる止痒消炎作用を呈する理想的皮膚病藥なり。

【特徵】

一、用法簡便且つ無害・無刺戟にして何等副作用を伴はず。

一、嫌惡すべき臭氣なく且つ衣服類を汚損することなし。

一、品質純良にして約二六%の硫黃を含有す。

適應症

疥癬・頭癬・濕疹一切・白癬・水蟲・面皰・汗疱・陰囊頭癬・皮膚化膿疹・傳染性膿疱疹・皮膚瘙痒症其他寄生性及瘙痒性及皮膚諸疾患。

包裝

一〇瓦（瓶入）
二五瓦（〃）
一〇〇瓦（〃）
五〇〇瓦（罐入）
一〇〇〇瓦（〃）

日染

ムナバール

製造元 日本染料製造株式會社 大阪市此花區春日出町

發賣元 株式會社稻畑商店 大阪市南區順慶町二丁目

昭和十四年七月四日第三種郵便物認可　昭和十五年八月十五日印刷納本　昭和十五年九月一日發行（毎月一回一日發行）第十六號